

SYLLABUS

藤華医療技術専門学校
作業療法学科

対象者に寄り添い生活機能を広い視点で評価し援助できる 作業療法士の育成を目指して

作業療法とは、身体または精神に障がいのある方、もしくはそれが予測される方に対して、その人らしく主体的な生活を営めるよう、いろいろな職種と連携して、多方面から援助を行う国家資格です。

本校への入学は作業療法士になるための入口となります。ここで皆さんはさまざまなことを経験、確かな知識技術を習得し3年後の国家試験の望むこととなります。決して楽な道程ではありませんが、将来出会う対象者のために日々研鑽を積んでください。3年間の学校生活を送るにあたり、以下の点を心掛けましょう。

1．あきらめる前に、とことん行動！

3年間の学習は、内容・時間ともに多く、くじけそうになることも多いと思います。あきらめる前に一步踏み止まり考えてください。わからないところを一つ一つ丹念に調べていけば、案外すんなり頭に入ってきます。学習の中身は人の体の働きや病気についてです。自分の体に置き換えて考えるとわかりやすいのです。それでもわからなければ、教員に聞いてください。

2．日々充実。毎日を大切に！

高等学校までは一夜漬けでできた勉強ですが、本校の勉強は範囲が広いので、一夜漬けが効きません。また、どこにヤマを張ってよいやらわからなくなってしまう。勉学に近道はありません。毎日の積み重ねが必ず効果として現れます。

3．仲間をつくる

どんなに苦しくても、仲間がいれば支えあえる。人間、いや動物とはそうした習性をもっています。ともに支えあえる仲間がいるからこそ頑張れる。この学校で多くの仲間をつくってください。一生の財産になります。

4．自ら答えを導き出す

高等学校までは「正解」を求めることが求められてきましたかもしれませんが。しかし、社会では「正解」はなく、「その場でベストな答えを導き出す」能力が要求されます。答えのみを追い求めるのではなく、自ら考え、調べ、相談し答えを導き出せるよう、努力してください。

教 育 方 針

< 基本理念 >

本校における作業療法士養成の理念は、基盤となる知識・技術および態度を学び、保健・医療・福祉との関連性を深め、豊かな教養と人間性を養い、地域や広く社会に貢献し生涯に渡り自己を啓発できる人材を育成することにある。

< 教育目的 >

作業療法士に必要な知識・技術および態度を習得させるとともに豊かな人間性を養い、保健・医療・福祉の発展に貢献できる作業療法士を育成する。

< 教育目標 >

- 1．人間を全人的（身体的・精神的・社会的）にとらえる能力を養う。
- 2．人間の健康と生活を自然・社会・文化的環境の相互の観点から理解する能力を養う。
- 3．人の多様な価値観を認識し専門職人としての共感的態度および倫理に基づいた作業療法を実践するとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。
- 4．対象者の病期に応じ、適切な作業療法を実践するための基礎的能力を養う。
- 5．保健医療福祉の諸制度、他職種の役割を理解し、チーム医療を実践する能力を養う。

< 作業療法カリキュラムの概要 >

作業療法士に求められているのは、他職種と協業し幅広い視点で作業療法を展開できる能力である。よって作業療法士は、医学的知識に加え、諸制度や社会学も必要となる。本校での最終目標は豊かな人間性の育成、対象者に誠心誠意かわり作業療法を実践できる能力の開発である。また、近年、医学教育はEBMを基本としつつ、いわゆる知識や技術だけでなく、臨床実践能力に重点を置く傾向にある。そこで、本校では主体的な学習姿勢を身につけるために問題基盤型学習(Problem-based learning;PBL)、客観的臨床能力試験(Objective structured clinical examination;OSCE)、参加型臨床実習(Clinical clerkship;CCS)を体系的に導入する。

本学科のカリキュラムは基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3つに分かれる。

基礎分野は、科学的・論理的思考力の養成、社会人としての知識基盤の修得、生命倫理、人間の尊厳の理解を深めることを目的としている。

専門基礎分野は、作業療法を行う上で必要な人体の構造・機能と心身の発達の理解、疾病および障害の知識と回復過程の理解、社会保障制度等の知識修得を目的としている。

専門分野は、作業療法を体系的に実施するために評価学、治療学、基礎作業療法学を細分化している。そして、1年次から体験実習・短期実習・地域実習を行い、体系的に臨床で学ぶ機会を提供し、幅広い思考を持つ作業療法士の育成を目指す。

学年別到達目標

年次	1 年次	2 年次	3 年次
認知領域	1 , リハビリテーションの考え方を明確にすることができる。 1) 対象者を全人的に捉えることの大切さを感じることができる。 2) 作業療法について自己の考えを持てる。 3) 主体的に学習することの大切さを感じることができる。	1 , 1 年次に学んだ知識を専門科目で統合し、作業療法の根拠を明確にすることができる。 1) 対象者を全人的 (身体・精神・社会) に捉えることができる。 2) 専門、関連分野の知識を活用し、国際生活機能分類に基づいた対象者への援助を考えることができる。 3) 専門職としての意識昂揚に伴う主体的な学習習慣を身につけることができる。	1 , これまで学んだ知識、技術を統合し、専門職としての意識を高める。 1) 対象者を全人的 (身体・精神・社会) に捉えることができる。 2) 国際生活機能分類を基礎とし、対象者に適した作業療法の実施方法を考えることができる。 3) 学生としてではなく専門職として主体的に学習することができる。
情意領域	1 , 作業療法学科の学生として適切な立ち居振る舞いができる。 2 , 講義・実習を通して作業療法に対する考えを養うことができる。	1 , 作業療法学科の学生として責任ある態度をとることができる。 2 , 対象者の尊厳を守り、その人の価値観を尊重することができる。 3 , 自己を洞察できる。	1 , 作業療法士、社会人として責任ある態度をとることができる。 2 , 対象者の尊厳を守り、その人の価値観を尊重することができる。 3 , 自己の客観的評価ができる。
精神運動領域	1 , 対象者を主体的に捉え、「どのような援助方法が考えられるか」という『思考』をすることができる。 2 , 自己の弱点を学習面、精神面の両面から考え、克服する術を考え、実践することができる。	1 , 学内での学習と臨床での対象者の状態を関連付けて把握することができる。 2 , 対象者に応じた適切な評価を組み立て、実践することができる。 3 , 対象者の生活機能を総合的に理解し、自立と回復の援助に向けた指導、援助を考える。	1 , 対象者を総合的に理解し、自立と回復の援助に向けた指導、援助を実践することができる。 2 , 評価結果やニーズから適切な目標設定を行い、援助計画を作成、実施できる。 3 , 必要に応じて臨機応変に援助計画を修正することができる。

		ることができる。 4 , 対象者の評価結果やニーズから適切な目標設定を行い、援助計画を作成できる。 5 , 必要に応じて臨機応変に援助計画を修正することができる。	4 , 専門職としてだけでなく、社会人として適切な立ち居振舞いを実践することができる。
--	--	--	--

作業療法学科科目および時間数（別表３ 作業療法学科（学則第８条関係）より）

科 目			単位		時間数
			講義・演習	実技・実習	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	2		30
		行動科学	1		15
		人間関係学	1		15
		倫理学	1		15
		教育社会学	2		30
		社会福祉学	1		15
		生体工学	1		15
		統計学	1		15
		情報科学	1		30
		保健体育		1	30
		英語	1		15
		医学英語	1		15
専門基礎分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	2		60
		解剖学Ⅱ	1	1	30
		生理学Ⅰ	2		60
		生理学Ⅱ	1	1	60
		運動学Ⅰ	1		30
		運動学Ⅱ	1		30
		運動学Ⅲ		1	30
		人間発達学	1		30
	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	病理学	1		30
		臨床心理学	1		30
		基礎医学概論Ⅰ	1		30
		基礎医学概論Ⅱ	1		30
		基礎医学概論Ⅲ	1		30
		内科学	1		40
		老年学	1		20
		整形外科学	2		60
		神経内科学・脳外科学	2		60
		精神医学	2		60
		小児科学	1		30
		リハビリテーション医学・障害学	1		30
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1		15
		保健医療福祉制度論	2		30
		公衆衛生学	1		15

科 目			単位		時間数
			講義・演習	実技・実習	
専 門 分 野	作業療法管理学	作業療法管理学	2		30
	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	1		30
		作業療法概論Ⅱ	2		60
		作業療法概論Ⅲ	2		60
		基礎作業学実習Ⅰ		2	60
		基礎作業学実習Ⅱ		2	60
		研究法	1		30
	作業評価学	生活評価学	1		30
		評価学演習Ⅰ	2	2	120
		評価学演習Ⅱ		2	60
		評価学統合	1	1	60
		精神障害評価学	1		30
	作業治療学	治療学総論	2		30
		脳血管疾患等作業療法	2		30
		高次脳機能障害作業療法	1		15
		神経内科作業療法	1		30
		内部障害系作業療法	1		15
		心大血管作業療法	1		15
		運動器作業療法	1		30
		呼吸器作業療法	1		30
		高齢期作業療法	1		15
		認知症作業療法	1		15
		精神障害作業療法	1		15
		精神治療技術Ⅰ	2		30
		精神治療技術Ⅱ	2		60
		発達障害治療学	1		30
		義肢装具学	1		30
	地域作業療法学	地域作業療法学	2		30
		生活環境論	1		30
		リハビリテーション機器	1		15
	臨床実習	見学実習Ⅰ		1	45
		見学実習Ⅱ		1	45
		検査測定実習		2	90
		評価実習Ⅰ		2	90
		評価実習Ⅱ		2	90
		総合臨床実習Ⅰ		8	360
		総合臨床実習Ⅱ		8	360
		地域実習		1	45

作業療法学科教育計画

科 目			時間数	1 年		2 年		3 年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	心理学	30	30					
		行動科学	15	15					
		人間関係学	15	15					
		倫理学	15	15					
		教育社会学	30	30					
		社会福祉学	15	15					
		生体工学	15	15					
		統計学	15		15				
		情報科学	30	30					
		保健体育	30	30					
		英語	15	15					
		医学英語	15		15				
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	60	60					
		解剖学Ⅱ	60		60				
		生理学Ⅰ	60	60					
		生理学Ⅱ	60		60				
		運動学Ⅰ	30	30					
		運動学Ⅱ	30		30				
		運動学Ⅲ	30			30			
		人間発達学	30	30					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	30			30			
		臨床心理学	30				30		
		基礎医学概論Ⅰ	30	30					
		基礎医学概論Ⅱ	30		30				
		基礎医学概論Ⅲ	30			30			
		内科学	40				40		
		老年学	20		20				
		整形外科科学	60			30	30		
		神経内科学・脳外科学	60			30	30		
		精神医学	60			60			
		小児科学	30				30		
		リハビリテーション医学・障害学	30		30				
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	15					
		保健医療福祉制度論	30		30				
		公衆衛生学	15	15					

科 目			時間数	1 年		2 年		3 年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
専 門 分 野	作業療法管理学	作業療法管理学	30						30
	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	30	30					
		作業療法概論Ⅱ	60			30	30		
		作業療法概論Ⅲ	60						60
		基礎作業学実習Ⅰ	60	30	30				
		基礎作業学実習Ⅱ	60			30	30		
		研究法	30						30
	作業評価学	生活評価学	30		30				
		評価学演習Ⅰ	120	60	60				
		評価学演習Ⅱ	60			60			
		評価学統合	60				60		
		精神障害評価学	30			30			
	作業治療学	治療学総論	30		30				
		脳血管疾患等作業療法	30			30			
		高次脳機能障害作業療法	15			15			
		神経内科作業療法	30				30		
		内部障害系作業療法	15				15		
		心大血管作業療法	15				15		
		運動器作業療法	30			30			
		呼吸器作業療法	30				30		
		高齢期作業療法	15				15		
		認知症作業療法	15			15			
		精神障害作業療法	15		15				
		精神治療技術Ⅰ	30			30			
		精神治療技術Ⅱ	60				60		
		発達障害治療学	30				30		
		義肢装具学	30				30		
	地域作業療法学	地域作業療法学	30				30		
		生活環境論	30			30			
		リハビリテーション機器	15		15				
	臨床実習	見学実習Ⅰ	45		45				
		見学実習Ⅱ	45						45
		検査測定実習	90		90				
		評価実習Ⅰ	90			90			
		評価実習Ⅱ	90				90		
		総合臨床実習Ⅰ	360					360	
		総合臨床実習Ⅱ	360					360	
		地域実習	45						45

基 礎 分 野

基本情報	1 年前期	基礎分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	心理学			
担当教員	麻生良太			

1. 講義概要

社会人として、また医療関係業務に携わる者として、自己や他者の心理を理解し、職務に臨むことは重要である。この講義では、臨床現場で対象者の心理を理解するための基礎知識を学習する。

2. 到達目標

ライフスタイル理論を基礎に発達期の特徴とそれぞれの時期に見られやすい障害や臨床的問題を中心に医療・福祉に携わるものに必要な心理学の基礎を理解する。

3. 成績評価

筆記試験 80% レポート 20%

100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

あなたのこころを科学する VER.3 北大路書房

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	オリエンテーション、心理学とは
2	心理学の主な歴史と著名な研究者
3	心理学の研究法とその方向性
4	学習理論 (1)
5	学習理論 (2)、発達 (1)
6	発達 (2)
7	発達 (3)
8	発達 (4)、パーソナリティ理論 (1)
9	パーソナリティ理論 (2)
10	パーソナリティ理論 (3)
11	パーソナリティ理論 (3)
12	集団と個人
13	適応の心理学 (1)
14	適応の心理学 (2)
15	臨床心理学の基礎

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位（15 時間）	授業方法（講義）																		
科目名	行動科学																					
担当教員	麻生良太																					
1. 講義概要 社会学・人類学・教育学等、学際的特質を有する行動科学についてその中心領域である心理学の視座から人間行動の生起、変容のメカニズムを講義する。 2. 到達目標 ・人間と人間行動について行動心理学、人間性心理学の立場から分析し基本的理解を図る。 ・集団行動、対人関係について集団力学の研究成果を拠り所に考察し、基本的理解を図る。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 必要に応じてプリント配布 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>行動科学の定義と領域</td></tr><tr><td>2</td><td>調査法と実験法</td></tr><tr><td>3</td><td>集団思考</td></tr><tr><td>4</td><td>集団決定と個人決定</td></tr><tr><td>5</td><td>援助行動，ソーシャルサポート</td></tr><tr><td>6</td><td>ソーシャルサポートとストレス</td></tr><tr><td>7</td><td>社会的行動，リーダーシップ</td></tr><tr><td>8</td><td>対人関係の基本軸、バランス理論と討論法</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	行動科学の定義と領域	2	調査法と実験法	3	集団思考	4	集団決定と個人決定	5	援助行動，ソーシャルサポート	6	ソーシャルサポートとストレス	7	社会的行動，リーダーシップ	8	対人関係の基本軸、バランス理論と討論法
コマ	教授内容																					
1	行動科学の定義と領域																					
2	調査法と実験法																					
3	集団思考																					
4	集団決定と個人決定																					
5	援助行動，ソーシャルサポート																					
6	ソーシャルサポートとストレス																					
7	社会的行動，リーダーシップ																					
8	対人関係の基本軸、バランス理論と討論法																					

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)																		
科目名	人間関係学																					
担当教員	麻生良太																					
1. 講義概要 医療従事者にとって人間関係の望ましい在り方について理解を深め、医療従事者としての人間的成長をはかる。 2. 到達目標 人間関係についての基礎知識とコミュニケーションに関する理解を深め、健康な人間関係を成立する構成要素および集団における交流の在り方を理解する。また、実際の人間関係の改善・発展の技法を身に付ける事を目標とする。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 必要に応じてプリント配布 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>対人認知 (1)</td></tr><tr><td>2</td><td>対人認知 (2)</td></tr><tr><td>3</td><td>対人魅力</td></tr><tr><td>4</td><td>対人関係の展開</td></tr><tr><td>5</td><td>対人コミュニケーション (1)</td></tr><tr><td>6</td><td>対人コミュニケーション (2)</td></tr><tr><td>7</td><td>対人的影響 (1)</td></tr><tr><td>8</td><td>対人的影響 (2)</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	対人認知 (1)	2	対人認知 (2)	3	対人魅力	4	対人関係の展開	5	対人コミュニケーション (1)	6	対人コミュニケーション (2)	7	対人的影響 (1)	8	対人的影響 (2)
コマ	教授内容																					
1	対人認知 (1)																					
2	対人認知 (2)																					
3	対人魅力																					
4	対人関係の展開																					
5	対人コミュニケーション (1)																					
6	対人コミュニケーション (2)																					
7	対人的影響 (1)																					
8	対人的影響 (2)																					

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)																		
科目名	倫理学																					
担当教員	吉田慧日																					
1. 講義概要 倫理学とはあるべき人間関係と行為を問う学問である。本講義では医療倫理や生命倫理学の分野で近年問題となっている事項について問題の所在や対処方法を考える。 2. 一般目標 (GIO) 近年問題となっている様々なテーマ (遺伝子治療、脳死、臓器移植、延命治療、患者の権利など) を題材に事実・状況を理解した上で問題の本質を適確に掴むこと。またそれについての自分の考えを他者に適切に伝える為に必要な筋道の通った文章力・表現力を養うことを目標とする。 3. 成績評価 ・レポート 100% ・100 点満点で表された成績を、100 ~ 90 点、89 ~ 80 点、79 ~ 70 点、69 ~ 60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 必要に応じてプリント配布 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション 倫理学とは</td></tr><tr><td>2</td><td>倫理と人間作り</td></tr><tr><td>3</td><td>「入学して」小論文の指導、新聞切り抜き感想文作成。</td></tr><tr><td>4</td><td>漢字力テスト 感想文の自己添削</td></tr><tr><td>5</td><td>コミュニケーション基礎 感想文の自己添削</td></tr><tr><td>6</td><td>生命倫理について 感想文の自己添削</td></tr><tr><td>7</td><td>出生前診断と生命倫理</td></tr><tr><td>8</td><td>小論文、倫理定義のまとめ</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	オリエンテーション 倫理学とは	2	倫理と人間作り	3	「入学して」小論文の指導、新聞切り抜き感想文作成。	4	漢字力テスト 感想文の自己添削	5	コミュニケーション基礎 感想文の自己添削	6	生命倫理について 感想文の自己添削	7	出生前診断と生命倫理	8	小論文、倫理定義のまとめ
コマ	教授内容																					
1	オリエンテーション 倫理学とは																					
2	倫理と人間作り																					
3	「入学して」小論文の指導、新聞切り抜き感想文作成。																					
4	漢字力テスト 感想文の自己添削																					
5	コミュニケーション基礎 感想文の自己添削																					
6	生命倫理について 感想文の自己添削																					
7	出生前診断と生命倫理																					
8	小論文、倫理定義のまとめ																					

基本情報	1 年前期	基礎分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	教育社会学			
担当教員	溝口泰章			
1. 講義概要				
この講義では、ひとが互いにより豊かな生涯をおくことができるよう、人間形成の過程について概説していく。				
2. 到達目標				
わたしたちは生物の一種である「ヒト」として生まれます。「ヒト」から「人」へ、さらに「人間」へ、ひとの成長・発達の歩みを、他者・家族・仲間・学校と教師・職場と同僚・地域と住民・国家と国民・地球市民と国際社会・地域や地球の自然環境・社会規範や文化やマスメディア等の社会的条件など、広い意味の環境との関係から探り、自分自身を含め、人間として成長・発達するとはどういうことかについて考えます。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
必要に応じてプリント配布				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	社会学の紹介			
2	教育と社会学			
3	社会の変遷			
4	社会構造の変革			
5	現代社会の抱える諸問題			
6	社会集団			
7	社会集団 ～家族～			
8	家族と社会化日本人のパーソナリティ			
9	社会集団 ～地域社会～			
10	戦後日本の地域開発			
11	社会集団 ～職場集団～			
12	社会集団と社会問題			
13	パーソナリティの形成メカニズム			
14	大衆社会状況下の人間形成			
15	社会学の方法 社会調査			

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)																		
科目名	社会福祉学																					
担当教員	田嶋昭二																					
1. 講義概要 社会福祉の原理や社会福祉の現状と問題点について学習する。 2. 到達目標 「福祉とは」なにか。日本における社会福祉を歴史からひも解くとともに、社会保障制度の現状や課題について概説し、対象者に有効かつ適切な援助を行なうための社会福祉の知識を身につける。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 四訂版 社会福祉概論 その基礎学習のために 社会福祉小六法 介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック 系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>社会保障制度と社会福祉</td></tr><tr><td>2</td><td>社会福祉の法制度・福祉 6 法</td></tr><tr><td>3</td><td>現代社会の変化 (人口・地域社会・家族・経済・雇用状況)</td></tr><tr><td>4</td><td>社会保障・社会福祉の動向</td></tr><tr><td>5</td><td>医療保障</td></tr><tr><td>6</td><td>介護保障・年金保険制度</td></tr><tr><td>7</td><td>所得保障と公的扶助</td></tr><tr><td>8</td><td>社会福祉の分野とサービス</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	社会保障制度と社会福祉	2	社会福祉の法制度・福祉 6 法	3	現代社会の変化 (人口・地域社会・家族・経済・雇用状況)	4	社会保障・社会福祉の動向	5	医療保障	6	介護保障・年金保険制度	7	所得保障と公的扶助	8	社会福祉の分野とサービス
コマ	教授内容																					
1	社会保障制度と社会福祉																					
2	社会福祉の法制度・福祉 6 法																					
3	現代社会の変化 (人口・地域社会・家族・経済・雇用状況)																					
4	社会保障・社会福祉の動向																					
5	医療保障																					
6	介護保障・年金保険制度																					
7	所得保障と公的扶助																					
8	社会福祉の分野とサービス																					

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)
科目名	生体工学			
担当教員	池内秀隆			

1. 講義概要

理学療法・作業療法の実践にあたり、自らが行う手技や治療について力学などを用い、理論的な説明が可能になることを狙いとする。

2. 到達目標

- 1) 基礎的な力学の知識を有し、取り扱いができること。
- 2) 患者に適した介助方法を選択し、その説明ができること。
- 3) 介助動作の力学的な意味づけを説明できること。

3. 成績評価

・筆記試験 80% レポート 20%

・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

新イラストによる安全な動作介助の手引き 第2版

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	動作介助の意義と目的
2	介助法を理解するための基礎知識 (1)
3	介助法を理解するための基礎知識 (2)
4	障害別介助の特徴と留意点
5	介助の実際 (座位・立位)
6	介助の実際 (移乗・リフト)
7	介助の実際 (車いす・自動車)
8	介助の実際 (歩行・階段昇降)

基本情報	1年後期	基礎分野	1単位 (15時間)	授業方法(講義)
科目名	統計学			
担当教員	麻生良太			
1. 講義概要				
リハビリの現場で利用できる統計学の基礎について講義する。				
2. 到達目標				
確率や統計の基礎を学ぶことで、医学分野におけるデータの意味を適切に把握し科学的な論理と思考の基本を学ぶことを目標とする。				
3. 成績評価				
筆記試験 80% レポート 20%				
・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
必要に応じてプリント配布				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	Excelで使われる基本的な用語と基本的な操作について			
2	Excelでのグラフ(横棒, 折れ線, データチャート)の作成方法について			
3	度数分布表, ヒストグラムの作成方法			
4	平均値, 中央値, 最頻値について			
5	偏差値の算出			
6	相関図の意味と作成法 相関関係の意味と求め方			
7	母集団と標本の違い, 標本調査について			
8	信頼区間による平均値の範囲の推定位について			

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位（ 30 時間 ）	講義方法（ 講義 ）
科目名	情報科学			
担当教員	吉岡 孝			
1. 講義概要				
電子カルテやインターネットを利用した遠隔医療など、医療環境は変革している。この単元ではコンピューターによる情報処理の実際を学ぶことによって情報リテラシーの育成を狙いとする。				
2. 到達目標				
情報科学の基礎理論と、コンピューターによる基本的な操作能力を習得する。				
3. 成績評価				
筆記試験 80% レポート 20%				
100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
系統別看護学講座 看護情報学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	情報と情報処理			
2	情報化社会の光と影			
3	コンピューターの概要・仕組み			
4	Windows の操作（ 1 ）			
5	Windows の操作（ 2 ）			
6	Word・Excel の利用法，演習（ 1 ）			
7	Word・Excel の利用法，演習（ 2 ）			
8	Word・Excel の利用法，演習（ 3 ）			
9	表と式，グラフの作成			
10	ホームページの見方とメールの使い方			
11	情報と倫理・個人情報の保護			
12	文献検索・アクセス			
13	データ収集と調査手法			
14	プレゼンテーション			
15	リハビリテーションにおける情報システム			

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (実習)
科目名	保健体育			
担当教員	川本紘美 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	菅原志津穂	理学療法士として 16 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
1. 講義概要				
ピラティスというドイツ生まれのボディワークは、体操により機能的な動きと美しい姿勢の獲得が可能となる。姿勢は日常の健康を映す鏡であり、不良姿勢は印象などの見た目が悪いだけでなく、腰痛など種々の不定愁訴に繋がり、痛みや違和感による QOL の低下やスポーツパフォーマンスの低下を引き起こす。この授業では、ピラティスを実践することで、臨床に必要な知識や機能的な身体の動きを学ぶ。				
2. 到達目標				
身体の動作法を獲得し、自身で実践できるようになる。				
3. 成績評価				
・筆記試験 60% 実技試験 40%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
必要に応じてプリント配布				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	ピラティス概論			
2	正しい姿勢とは			
3	姿勢の診かた			
4	ショルダブリッジの運動学			
5	筋肉の働き (体幹)			
6	座位・立位のエクササイズ			
7	筋肉の働き (下肢)			
8	ピラティスエクササイズ実習			
9	筋肉の働き (上肢)			
10	ピラティスエクササイズ実習			
11	プランク・四つ這い			
12	ピラティスエクササイズ実習			
13	異常姿勢の見分け方			
14	栄養補給と運動			
15	インターバルトレーニング			

基本情報	1 年前期	基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (実技・実習)																		
科目名	澤田明子																					
担当教員	英語																					
1. 講義概要 英語の基礎学力を確実に身につけ、実際の医療現場で英語を用いてコミュニケーションができる力を養う。 2. 到達目標 日常生活に必要なコミュニケーション能力の育成のため話す、聞く演習を通して、生きた英語を学び言語を実際に運用する能力を養う。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 A NEW LOOK AT WORLD 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>Green School</td></tr><tr><td>2</td><td>How to Measure the Size of the Earth</td></tr><tr><td>3</td><td>How to Live to Be 100</td></tr><tr><td>4</td><td>Solo Free Climbing</td></tr><tr><td>5</td><td>Caber Tossing</td></tr><tr><td>6</td><td>Around the World in 518 Days</td></tr><tr><td>7</td><td>Happy Endings</td></tr><tr><td>8</td><td>Zahra's Paradise</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	Green School	2	How to Measure the Size of the Earth	3	How to Live to Be 100	4	Solo Free Climbing	5	Caber Tossing	6	Around the World in 518 Days	7	Happy Endings	8	Zahra's Paradise
コマ	教授内容																					
1	Green School																					
2	How to Measure the Size of the Earth																					
3	How to Live to Be 100																					
4	Solo Free Climbing																					
5	Caber Tossing																					
6	Around the World in 518 Days																					
7	Happy Endings																					
8	Zahra's Paradise																					

基本情報	1 年後期	基礎分野	1 単位（15 時間）	授業方法（講義）																		
科目名	医学英語																					
担当教員	澤田明子																					
1. 講義概要 読解力および表現力を養うとともに医療の現場に必要な英語力を養う。 2. 到達目標 医療の現場に必要な英語力及び基礎知識を身につけ、それを運用していく能力の育成する。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 福祉の英語 English for Social Welfare 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>日本人の福祉の理解</td></tr><tr><td>2</td><td>障害者にとって働く意義とは</td></tr><tr><td>3</td><td>老人の孤独</td></tr><tr><td>4</td><td>IT と福祉の分野・役割</td></tr><tr><td>5</td><td>寝たきりを防ぐにはどうしたらよいか</td></tr><tr><td>6</td><td>介護の仕事と外国人</td></tr><tr><td>7</td><td>ロボットペットが独居老人の命を守る</td></tr><tr><td>8</td><td>NPO は福祉のどんな分野で活躍しているでしょう</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	日本人の福祉の理解	2	障害者にとって働く意義とは	3	老人の孤独	4	IT と福祉の分野・役割	5	寝たきりを防ぐにはどうしたらよいか	6	介護の仕事と外国人	7	ロボットペットが独居老人の命を守る	8	NPO は福祉のどんな分野で活躍しているでしょう
コマ	教授内容																					
1	日本人の福祉の理解																					
2	障害者にとって働く意義とは																					
3	老人の孤独																					
4	IT と福祉の分野・役割																					
5	寝たきりを防ぐにはどうしたらよいか																					
6	介護の仕事と外国人																					
7	ロボットペットが独居老人の命を守る																					
8	NPO は福祉のどんな分野で活躍しているでしょう																					

専門基礎分野

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義)
科目名	解剖学 I			
担当教員	藤倉義久			
	北村裕和			
	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 16 年ほどの経験を有する。		
	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
解剖学は、理学療法士作業療法士を目指す者にとって人体を構成する諸器官の正常な形態を系統だて学ぶ最も重要な専門基礎科目である。				
2. 到達目標				
人体の発生から組織学、骨格、関節と靱帯、筋系、神経系、循環器系、内臓系と概説し人体の諸器官の精巧な形態と多様性に基づく基本的な機能を学習していく。				
3. 成績評価				
・筆記試験 80% レポート 20%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
解剖学 (標準理学療法・作業療法学) 肉単 語源から覚える英単語集				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	解剖学総論 人体の構成	16	内臓学 感覚器 (2)	
2	解剖学総論 人体の構成	17	骨学総論	
3	解剖学総論 解剖学用語	18	骨学各論 (1)	
4	発生学 系統発生	19	骨学各論 (2)	
5	内臓学 循環器 (1)	20	関節・靱帯学総論	
6	内臓学 循環器 (2)	21	関節・靱帯学総論	
7	内臓学 循環器 (3)	22	関節・靱帯学各論 頭頸部	
8	内臓学 循環器 (4)	23	関節・靱帯学各論 脊柱	
9	内臓学 消化器学 (1)	24	関節・靱帯学各論 上肢帯、肩、体幹	
10	内臓学 消化器学 (2)	25	関節・靱帯学各論 肘関節	
11	内臓学 呼吸器系	26	関節・靱帯学各論 肘・前腕	
12	内臓学 内分泌系	27	関節・靱帯学各論 手関節・手指	
13	内臓学 泌尿器系	28	関節・靱帯学各論 骨盤・股関節	
14	内臓学生殖器	29	関節・靱帯学各論 膝関節	
15	内臓学 感覚器 (1)	30	関節・靱帯学各論 下腿、足関節	
			テスト	

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義・実習)
科目名	解剖学Ⅱ			
担当教員	藤倉義久			
	北村裕和			
	福田旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 16 年ほどの経験を有する。		
	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
骨格をなすそれぞれの骨、その構造を模型を通して理解し、全身の構成を学ぶ。				
解剖見学実習を通して、人体の構造と機能を概観する。				
御献体の意義と倫理観を養う。				
2. 到達目標				
全身の骨格の形態と名称を理解する。				
人体の組織学、骨格、関節と靱帯、筋系、神経系、循環器系、内臓系を御献体を見て触れて理解を深める。				
3. 成績評価				
・筆記試験 80% レポート 20%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
解剖学 (標準理学療法・作業療法学) 肉単 語源から覚える英単語集				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	解剖学総論 筋学総論 1	16	筋・神経 (筋の支配神経)	
2	筋学総論 2	17	神経系 各論 中枢神経 1	
3	筋学総論 3	18	神経系 各論 中枢神経 2	
4	筋学総論 4	19	神経系 各論 中枢神経 3	
5	神経系総論 1	20	神経系 各論 中枢神経 4	
6	神経系総論 2	21	神経系 各論 末梢神経 1	
7	筋学 各論 下肢帯 1	22	神経系 各論 末梢神経 2	
8	筋学 各論 下肢帯 2	23	神経系 各論 末梢神経 3	
9	筋学 各論 下肢帯 3	24	神経系 各論 末梢神経 4	
10	筋学 各論 体幹 1	25	筋・筋膜 アトミトレイン	
11	筋学 各論 体幹 2	26	アトミトレインを応用した肩関節の治療	
12	筋学 各論 体幹 3	27	アトミトレインを応用した腰痛の治療	
13	筋学 全体復習 1	28	アトミトレインを用いた自律神経と運動療法	
14	筋学 全体復習 2	29	解剖見学実習オリエン	
15	神経系各論 神経伝導路	30	解剖見学実習	

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	2 単位（ 60 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	生理学 I			
担当教員	彌田 剛 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年の経験を有する。		
1. 講義概要				
生理学では人体の諸構造の持つ機能とそれらの結びつきを学ぶ。				
2. 到達目標				
生命を維持するために諸器官はそれぞれ特有な機能を持ちそれらが絶えず相互に調整し合うことで、人体の内部環境の維持と外部環境への適応とを図っている。生理学ではこれらの機能の発現様式と機序について体系的に学習する。				
3. 成績評価				
筆記試験 100%				
100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
シンプル生理学 第 7 版				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	生理学総論	16	排便機構	
2	細胞（ DNA を中心に ）	17	血液の機能	
3	静止膜電位	18	免疫機構	
4	活動電位	19	心臓と循環 1	
5	興奮の伝導	20	心臓と循環 2	
6	情報の伝達	21	末梢循環と調節	
7	中枢神経総論	22	体温調節	
8	視床下部と辺縁系	23	呼吸機能 1	
9	自律神経・ホルモン総論	24	呼吸機能 2	
10	下垂体	25	腎機能 1	
11	甲状腺・副腎	26	腎機能 2	
12	膵臓・性腺	27	排尿機構	
13	栄養と代謝	28	体液とその調節 1	
14	消化とその調節	29	体液とその調節 2	
15	消化と吸収	30	試験と解説	

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義 ・ 実習)
科目名	生理学Ⅱ			
開講年次	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義 ・ 演習を行なっている。教員として 20 年の経験を有する。		
1. 講義概要				
講義で学んだ内容について、実習を通して理解を深める。				
2. 到達目標				
生命を維持するために諸器官はそれぞれ特有な機能を持ちそれらが絶えず相互に調整し合うことで、人体の内部環境の維持と外部環境への適応とを図っている。生理学ではこれらの機能の発現様式と機序について体系的に学習する。加えて、実習を通して人体の仕組みを理解することができる。				
3. 成績評価				
・筆記試験 50% レポート 30% 発表会 20%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト ・ 参考書等				
シンプル生理学 ・ 実習書				
5. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	筋肉の分類と構造 1		16	視覚
2	筋肉の分類と構造 2		17	嗅覚 ・ 味覚
3	骨格筋の収縮機構 1		18	実習 1
4	骨格筋の収縮機構 2		19	実習 2
5	筋紡錘とゴルジ腱器官		20	実習 3
6	脊髄反射 ・ 姿勢反射		21	実習 4
7	大脳皮質 (機能局在)		22	実習 5
8	大脳と運動		23	実習 6
9	大脳基底核と運動		24	実習 7
10	小脳と運動		25	実習 8
11	感覚総論		26	実習 9
12	体性感覚 ・ 内臓感覚		27	実習 10
13	深部感覚		28	実習 11
14	聴覚		29	実習 12
15	前庭感覚		30	テストと解説

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)																																
科目名	運動学 I																																			
担当教員	彌田 剛	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年の経験を有する。																																		
1. 講義概要 障害を負った対象者の動作分析能力を身につけるために必要な基礎知識を教授する。 2. 到達目標 運動学は、人間の身体運動の機構を科学的に分析する学問である。骨と筋肉、関節靱帯を中心とする運動器の構造と機能、物理学に基づく生体力学など正常人の運動の発現を構成する基本的な因子について理解する。 3. 成績評価 筆記試験 100% 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 基礎運動学 第 6 版 補訂 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>運動学とは？</td></tr><tr><td>2</td><td>物理学の基礎 1</td></tr><tr><td>3</td><td>物理学の基礎 2</td></tr><tr><td>4</td><td>人の骨格 1</td></tr><tr><td>5</td><td>人の骨格 2</td></tr><tr><td>6</td><td>関節と靱帯 1</td></tr><tr><td>7</td><td>関節と靱帯 2</td></tr><tr><td>8</td><td>運動方向 1</td></tr><tr><td>9</td><td>運動方向 2</td></tr><tr><td>10</td><td>上肢の運動学 (筋肉を中心に) 1</td></tr><tr><td>11</td><td>上肢の運動学 (筋肉を中心に) 2</td></tr><tr><td>12</td><td>肩の運動学 1</td></tr><tr><td>13</td><td>肩の運動学 2</td></tr><tr><td>14</td><td>肘・前腕・手関節の運動学 1</td></tr><tr><td>15</td><td>肘・前腕・手関節の運動学 2</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	運動学とは？	2	物理学の基礎 1	3	物理学の基礎 2	4	人の骨格 1	5	人の骨格 2	6	関節と靱帯 1	7	関節と靱帯 2	8	運動方向 1	9	運動方向 2	10	上肢の運動学 (筋肉を中心に) 1	11	上肢の運動学 (筋肉を中心に) 2	12	肩の運動学 1	13	肩の運動学 2	14	肘・前腕・手関節の運動学 1	15	肘・前腕・手関節の運動学 2
コマ	教授内容																																			
1	運動学とは？																																			
2	物理学の基礎 1																																			
3	物理学の基礎 2																																			
4	人の骨格 1																																			
5	人の骨格 2																																			
6	関節と靱帯 1																																			
7	関節と靱帯 2																																			
8	運動方向 1																																			
9	運動方向 2																																			
10	上肢の運動学 (筋肉を中心に) 1																																			
11	上肢の運動学 (筋肉を中心に) 2																																			
12	肩の運動学 1																																			
13	肩の運動学 2																																			
14	肘・前腕・手関節の運動学 1																																			
15	肘・前腕・手関節の運動学 2																																			

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	1 単位（ 30 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	運動学Ⅱ			
担当教員	彌田 剛 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年の経験を有する。		
1. 講義概要 手指～下肢、体幹の運動学ならびに歩行の基礎知識を学習する。				
2. 到達目標 運動学は、人間の身体運動の機構を科学的に分析する学問である。骨と筋肉、関節靱帯を中心とする運動器の構造と機能、物理学に基づく生体力学など正常人の運動の発現を構成する基本的な因子について理解を深める。				
3. 成績評価 筆記試験 100% 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等 基礎運動学 第 6 版 補訂				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	手指の運動学 1			
2	手指の運動学 2			
3	手指の変形など			
4	下肢の運動学（筋肉を中心に）1			
5	下肢の運動学（筋肉を中心に）2			
6	股関節の運動学 1			
7	股関節の運動学 2			
8	膝関節の運動学 1			
9	膝関節の運動学 2			
10	足関節の運動学 1			
11	足関節の運動学 2			
12	頸部・体幹の運動学			
13	姿勢と重心 ポジションについて			
14	歩行の運動学 1			
15	歩行の運動学 2			

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (実習)																																
科目名	運動学Ⅲ																																			
担当教員	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として9年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年の経験を有する。																																		
1. 講義概要 1 年次に学習した基礎知識を元に動作分析の技能を習得する。 2. 到達目標 健常者ならびに障害者の動作を分析することができる。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 基礎運動学 随時プリントなどを配布 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>動作分析とは</td></tr><tr><td>2</td><td>健常人の動作分析 1</td></tr><tr><td>3</td><td>健常人の動作分析 2</td></tr><tr><td>4</td><td>健常人の動作分析 3</td></tr><tr><td>5</td><td>健常人の動作分析 4</td></tr><tr><td>6</td><td>疾患別動作分析 (CVA)</td></tr><tr><td>7</td><td>疾患別動作分析 (CVA)</td></tr><tr><td>8</td><td>疾患別動作分析 (脊髄損傷)</td></tr><tr><td>9</td><td>疾患別動作分析 (脊髄損傷)</td></tr><tr><td>10</td><td>疾患別動作分析 (その他)</td></tr><tr><td>11</td><td>疾患別動作分析 (その他)</td></tr><tr><td>12</td><td>運動学習 1</td></tr><tr><td>13</td><td>運動学習 2</td></tr><tr><td>14</td><td>運動生理学 1</td></tr><tr><td>15</td><td>運動生理学 2</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	動作分析とは	2	健常人の動作分析 1	3	健常人の動作分析 2	4	健常人の動作分析 3	5	健常人の動作分析 4	6	疾患別動作分析 (CVA)	7	疾患別動作分析 (CVA)	8	疾患別動作分析 (脊髄損傷)	9	疾患別動作分析 (脊髄損傷)	10	疾患別動作分析 (その他)	11	疾患別動作分析 (その他)	12	運動学習 1	13	運動学習 2	14	運動生理学 1	15	運動生理学 2
コマ	教授内容																																			
1	動作分析とは																																			
2	健常人の動作分析 1																																			
3	健常人の動作分析 2																																			
4	健常人の動作分析 3																																			
5	健常人の動作分析 4																																			
6	疾患別動作分析 (CVA)																																			
7	疾患別動作分析 (CVA)																																			
8	疾患別動作分析 (脊髄損傷)																																			
9	疾患別動作分析 (脊髄損傷)																																			
10	疾患別動作分析 (その他)																																			
11	疾患別動作分析 (その他)																																			
12	運動学習 1																																			
13	運動学習 2																																			
14	運動生理学 1																																			
15	運動生理学 2																																			

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	人間発達学			
担当教員	池邊修二			
1. 講義概要				
人間を身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえ、発達という観点から理解する。				
2. 到達目標				
発達理論をふまえ、乳幼児期の特徴を中心に知能・精神面・運動・身体面、そして社会性の面などの基本的かつ実践的な知識の習得を目標とする。				
3. 成績評価				
筆記試験 100%				
100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
生涯人間発達学 運動発達と反射				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	人間発達学とは何か (1)			
2	人間発達学とは何か (2)			
3	出生前発達			
4	乳児発達 (1)			
5	乳児発達 (2)			
6	原始反射 (1)			
7	原始反射 (2)			
8	立ち直り反射			
9	幼児発達 (1)			
10	幼児発達 (2)			
11	環境と人間			
12	思春期発達			
13	成年期発達			
14	老年期発達 (1)			
15	老年期発達 (2)			

基本情報	1 年後期	専門基礎分野	1 単位（ 30 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	病理学			
担当教員	秋月真一郎			
1. 講義概要				
病理学概論では疾病において出現する形態と機能及び代謝の異常について学習する。				
2. 到達目標				
進行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、感染症 奇形といった基本病変の定義や病態を理解する。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
系統看護学講座 専門基礎分野 病理学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	病因、奇形			
2	奇形、代謝障害			
3	代謝障害			
4	循環障害			
5	循環障害			
6	炎症			
7	炎症			
8	腫瘍			
9	腫瘍			
10	循環器			
11	血液、呼吸器			
12	呼吸器、消化器			
13	肝、腎、生殖器			
14	内分泌			
15	内分泌、脳			

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	臨床心理学			
担当教員	長谷川美枝子			
1. 講義概要				
臨床心理学と P T ・O T の関わり、および最新の治療方法や病理学的な知見を学ぶ。				
2. 到達目標				
臨床心理学総論を概説した後、障害理解の基礎として主要な人格理論を教授する。また、障害理解の手段としての心理検査や心理療法などの援助技法について講義する。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
リハビリテーション患者の心理とケア 臨床心理学のすべてがわかる本				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	臨床心理学とは			
2	心理学の基礎知識 (1)			
3	心理学の基礎知識 (2)			
4	臨床心理学的援助の対象 (1)			
5	臨床心理学的援助の対象 (2)			
6	臨床心理学的援助の対象 (3)			
7	臨床心理学的援助の方法 (1)			
8	臨床心理学的援助の方法 (2)			
9	臨床心理学的援助の方法 (3)			
10	様々な心理療法と技法 (1)			
11	様々な心理療法と技法 (2)			
12	様々な心理療法と技法 (3)			
13	様々な心理療法と技法 (4)			
14	様々な心理療法と技法 (5)			
15	様々な心理療法と技法 (6)			

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位（30 時間）	授業方法（講義）																																
科目名	基礎医学概論Ⅰ																																			
担当教員	岡野良文																																			
	福田旨宏 （実務経験者）	理学療法士として 11 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 16 年ほどの経験を有する。																																		
	彌田 剛 （実務経験者）	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。																																		
	藤原 一 （実務経験者）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。																																		
	林 貴紀 （実務経験者）	理学療法士として 15 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 15 年ほどの経験を有する。																																		
	濱砂敦子 （実務経験者）	理学療法士として 14 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 2 年ほどの経験を有する。																																		
1. 講義概要 細胞と組織 呼吸の仕組み 循環の構造の仕組み など																																				
2. 到達目標 生体のさまざまな組織や臓器、器官がどのように協調しながら個体としての人間を形作っているのかを機能と形態を交えながら臨床医学の初心者にもわかりやすく解説する。さらにそれらに関連した臨床上の問題や病気についても理解を深める。																																				
3. 成績評価 筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。																																				
4. テキスト・参考書等 目で見えるからだのメカニズム																																				
5. 授業計画																																				
<table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>細胞の特徴と構造</td></tr><tr><td>2</td><td>消化器を構成する器官</td></tr><tr><td>3</td><td>肝臓・胆嚢・膵臓の機能と構造</td></tr><tr><td>4</td><td>消化管・胃・大腸の機能と構造</td></tr><tr><td>5</td><td>血液の組成と役割</td></tr><tr><td>6</td><td>呼吸器における内呼吸と外呼吸</td></tr><tr><td>7</td><td>泌尿器と生殖器の構造と機能</td></tr><tr><td>8</td><td>心臓の解剖生理</td></tr><tr><td>9</td><td>循環器系における疾患と病態</td></tr><tr><td>10</td><td>脳と脊髄の機能と解剖</td></tr><tr><td>11</td><td>脳の疾患と認知症</td></tr><tr><td>12</td><td>視覚・聴覚の機能と構造</td></tr><tr><td>13</td><td>味覚・嗅覚などの感覚器の機能</td></tr><tr><td>14</td><td>骨・筋肉の組成と働き</td></tr><tr><td>15</td><td>筋収縮とエネルギー代謝</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	細胞の特徴と構造	2	消化器を構成する器官	3	肝臓・胆嚢・膵臓の機能と構造	4	消化管・胃・大腸の機能と構造	5	血液の組成と役割	6	呼吸器における内呼吸と外呼吸	7	泌尿器と生殖器の構造と機能	8	心臓の解剖生理	9	循環器系における疾患と病態	10	脳と脊髄の機能と解剖	11	脳の疾患と認知症	12	視覚・聴覚の機能と構造	13	味覚・嗅覚などの感覚器の機能	14	骨・筋肉の組成と働き	15	筋収縮とエネルギー代謝
コマ	教授内容																																			
1	細胞の特徴と構造																																			
2	消化器を構成する器官																																			
3	肝臓・胆嚢・膵臓の機能と構造																																			
4	消化管・胃・大腸の機能と構造																																			
5	血液の組成と役割																																			
6	呼吸器における内呼吸と外呼吸																																			
7	泌尿器と生殖器の構造と機能																																			
8	心臓の解剖生理																																			
9	循環器系における疾患と病態																																			
10	脳と脊髄の機能と解剖																																			
11	脳の疾患と認知症																																			
12	視覚・聴覚の機能と構造																																			
13	味覚・嗅覚などの感覚器の機能																																			
14	骨・筋肉の組成と働き																																			
15	筋収縮とエネルギー代謝																																			

基本情報	1年後期	専門基礎科目	1単位（30時間）	授業方法（講義）
科目名	基礎医学概論Ⅱ			
担当教員	麻生裕規雄 他			
1. 講義概要				
薬物による生体の生理機能の変化と栄養学の基礎について学ぶ。				
2. 到達目標				
薬はどうやって体に効果をもたらすのか、薬の副作用は、なぜ起こるのか、薬はどう使うのがもっとも適切かなど薬理学の基礎知識を身につける。また、食事や食品、その成分である栄養素がどのように生物の中で利用されたり影響しているかを学ぶ栄養学の基礎について学ぶ。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
クイックマスター 新訂版 薬理学 第2版 サイオ出版				
リハビリテーションに役立つ栄養学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	薬理学の基礎知識			
2	神経系作用薬			
3	心臓・血管系作用薬			
4	呼吸器系作用薬			
5	消化器系・物質代謝作用薬			
6	抗感染症薬			
7	漢方・生物学的製剤・薬物中毒			
8	高齢社会と栄養・リハビリテーション栄養の重要性			
9	栄養の基礎			
10	5大栄養素の役割			
11	運動時の栄養			
12	低栄養者の栄養管理			
13	摂食・嚥下障害・サルコペニアの栄養療法			
14	主な疾患の栄養療法			
15	NST の実際			

基本情報	2 年後期	専門基礎科目	1 単位（ 30 時間）	授業方法（ 講義 ）
科目名	基礎医学概論Ⅲ			
担当教員	桑原 宏 他			
1. 講義概要				
画像検査の臨床的特徴と局所解剖学の知識をもとにした画像診断の基礎について学ぶ。また赤十字救急法救急員養成講習を受講し、手当の基本と一次救命処置の正しい知識を身につける。				
2. 到達目標				
放射線医学の基礎知識からリハビリテーションに活かすために PT・OT として知っておくべき X 線、CT、MRI などの画像の診かた、重要疾患の画像所見のポイントについて放射線技師の立場でわかりやすく解説する。また、救急法では、手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED の操作、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得など救急員として幅広い知識と技術を習得することを目的とする。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
必要に応じてプリント配布（画像の診かた）				
赤十字救急員養成講習テキスト				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	画像検査（ X 線・CT・MRI ）の基礎知識			
2	脳画像読影の基礎知識			
3	脳			
4	脊柱			
5	上肢・下肢			
6	内臓			
7	練習問題・まとめ			
8	赤十字救急法について			
9	一次救命処置			
10	手当の基本			
11	急病・けが・止血			
12	きずの手当			
13	骨折の手当て			
14	搬送・学科試験			
15	実技試験			

基本情報	2年後期	専門基礎科目	1単位（40時間）	授業方法（講義）
科目名	内科学			
担当教員	深田健治			

1. 講義概要

内科学では疾患の理解に主眼をおき、各系統別に代表的な疾患あるいは注目すべき疾患の病因、病態生理、診断、臨床症状、治療および予後について臨床的立場から解説する。

2. 到達目標

リハビリテーションに必要な代表的な内科疾患について理解を深める。

3. 成績評価

・期末試験 80% 小テスト 20%

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

内科学（標準理学療法・作業療法学）

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	内科学診断と治療の実際	12	血液・造血器疾患
2	症候学	13	代謝性疾患総論
3	循環器疾患総論	14	代謝性疾患各論
4	循環器疾患各論	15	内分泌疾患総論
5	呼吸器疾患総論	16	内分泌疾患各論
6	呼吸器疾患各論	17	腎・泌尿器疾患総論
7	消化器疾患総論	18	腎・泌尿器疾患各論
8	消化管疾患各論	19	アレルギー、膠原病、類縁疾患、免疫不全
9	肝胆膵疾患総論	20	感染症
10	肝胆膵疾患各論	21	期末テスト
11	中間まとめ（試験）		

基本情報	1年後期	専門基礎科目	1単位（20時間）	授業方法（講義）																						
科目名	老年学																									
担当教員	土生洋一・岡野良文																									
1. 講義概要 高齢者の医療，福祉，介護などに対するニーズに対応できる知識技術を習得する。 2. 到達目標 高齢化社会の進展に伴う疾患の理解に主眼を置き、各系統別に代表的な疾患あるいは注目すべき疾患の病因、病態生理、診断、臨床症状、予防及び治療・予後について臨床的立場より解説する。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 4. テキスト・参考書等 老年学（標準理学療法・作業療法学） 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>加齢と老化</td></tr><tr><td>2</td><td>加齢に伴う変化：生理機能</td></tr><tr><td>3</td><td>加齢に伴う変化：運動機能</td></tr><tr><td>4</td><td>加齢に伴う変化：精神機能</td></tr><tr><td>5</td><td>高齢者に特徴的疾患：老年症候群・循環器疾患</td></tr><tr><td>6</td><td>高齢者に特徴的疾患：呼吸・循環器疾患</td></tr><tr><td>7</td><td>高齢者に特徴的疾患：骨・運動疾患</td></tr><tr><td>8</td><td>高齢者に特徴的疾患：神経疾患</td></tr><tr><td>9</td><td>高齢者に特徴的疾患：内分泌・免疫疾患</td></tr><tr><td>10</td><td>老年学・東洋医学・漢方</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	加齢と老化	2	加齢に伴う変化：生理機能	3	加齢に伴う変化：運動機能	4	加齢に伴う変化：精神機能	5	高齢者に特徴的疾患：老年症候群・循環器疾患	6	高齢者に特徴的疾患：呼吸・循環器疾患	7	高齢者に特徴的疾患：骨・運動疾患	8	高齢者に特徴的疾患：神経疾患	9	高齢者に特徴的疾患：内分泌・免疫疾患	10	老年学・東洋医学・漢方
コマ	教授内容																									
1	加齢と老化																									
2	加齢に伴う変化：生理機能																									
3	加齢に伴う変化：運動機能																									
4	加齢に伴う変化：精神機能																									
5	高齢者に特徴的疾患：老年症候群・循環器疾患																									
6	高齢者に特徴的疾患：呼吸・循環器疾患																									
7	高齢者に特徴的疾患：骨・運動疾患																									
8	高齢者に特徴的疾患：神経疾患																									
9	高齢者に特徴的疾患：内分泌・免疫疾患																									
10	老年学・東洋医学・漢方																									

基本情報	2 年次	専門基礎分野	2 単位（ 60 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	整形外科科学			
担当教員	七森和久			
1. 講義概要				
整形外科科学は外科系医学のうちでも、骨・関節・筋・靱帯・神経などの運動器疾患および身体姿勢を扱う領域である。本講義では、代表的な運動器疾患の診断と治療について系統的に理解することを目的とし、基礎的知識の習得とその臨床的な応用について教授する。				
2. 到達目標				
運動器系疾患の病態と臨床像および治療について理解し、適切なリハビリテーションの実践に必要な知識を修得する。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
整形外科科学（標準理学療法・作業療法学）				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	整形外科基礎	17	脊損、骨折総論	
2	整形外科基礎	18	骨折総論	
3	整形外科基礎 整形外科治療	19	骨折各論	
4	整形外科基礎	20	骨折各論	
5	整形外科基礎	21	骨折各論	
6	整形外科治療法	22	骨折各論	
7	炎症性疾患	23	骨折、末梢神経損傷	
8	炎症性疾患	24	末梢神経損傷	
9	内分泌、代謝疾患	25	熱傷	
10	退行性疾患	26	切断	
11	先天性疾患	27	関節外傷	
12	循環障害	28	腱靱帯	
13	骨軟部腫瘍	29	腱靱帯、スポーツ障害	
14	神経筋疾患	30	スポーツ障害	
15	脊椎疾患	31	テスト	
16	脊髄損傷			

基本情報	2 年次	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義)
科目名	神経内科学・脳外科学			
担当教員	佐藤智彦			
1. 講義概要				
脳の解剖と臨床 脳と意識 意識障害 脳の解剖 画像診断 頭部外傷 脳腫瘍 脳卒中 変性疾患 認知症 など				
2. 到達目標				
神経症候学及びリハビリテーションの対象となる代表的な中枢神経疾患の病態と診断、治療および予後に重点をおいて教授する。具体的には疾患の理解を深めるとともに個々の障害に対する治療の概略とその治療効果を検証するに適した評価法ができるようになることを目標とする。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
神経内科学 (標準理学療法・作業療法学)				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	脳幹の解剖と病態生理	17	脳挫傷について	
2	神経系とその働き	18	脳腫瘍のタイプと臨床症状	
3	神経伝導路	19	脳血管系の病態生理と分類	
4	大脳辺縁系の解剖と臨床	20	脳梗塞の発生机序	
5	大脳高次機能とその障害	21	脳梗塞の臨床診断と治療の原則	
6	記憶と認知症	22	脳出血の症状・診断・治療	
7	失語症のタイプと症状	23	くも膜下出血の病態・症状・治療	
8	構音の病態生理	24	変性疾患の病態と症状	
9	嚥下の解剖と病態生理	25	パーキンソン病関連疾患	
10	摂食・嚥下訓練と評価	26	認知症のタイプと症状	
11	脳神経系検査	27	脊髄小脳変性症の病態と症状	
12	ニューロンの構造と臨床	28	筋萎縮性側索硬化症の病態と症状	
13	ニューロンの電気活動と評価	29	多発性硬化症の病態と症状	
14	脳の保護機構について	30	末梢神経障害のタイプと症状	
15	髄液系とその病態	31	テスト	
16	頭痛のタイプと治療			

基本情報	2 年前期	専門基礎分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義)
科目名	精神医学			
担当教員	山本久雄			
1. 講義概要				
精神医学では代表的な精神疾患についての原因、病態、診断、治療について教授する。また、患者の精神の問題を多角的に捉えていけるよう、精神医学の基礎に基づいた患者の行動観察や心理面の把握、患者と治療者との関係の考え方について教授する。				
2. 到達目標				
精神疾患の病態を理解することで障害を持つ患者への理解とそれぞれに適した働きかけについて理解を深める。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
現代臨床精神医学 精神医学 (標準理学療法学・作業療法学)				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	精神医学とは	16	統合失調症 (1)	
2	精神障害の成因と分類	17	統合失調症 (2)	
3	精神機能の障害と精神症状 (1)	18	統合失調症 (3)	
4	精神機能の障害と精神症状 (2)	19	統合失調症 (4) ・気分障害	
5	精神機能の障害と精神症状 (3)	20	気分障害	
6	精神機能の障害と精神症状 (4)	21	気分障害	
7	精神障害の診断と評価 (1)	22	神経症性障害 (2)	
8	精神障害の診断と評価 (2)	23	神経症性障害 (1)	
9	精神障害の診断と評価 (3)	24	生理的障害および身体的要因に関連した障害・人格の障害	
10	脳器質性精神障害 (1)	25	人格・行動・性の障害	
11	脳器質性精神障害 (2)	26	精神遅滞・心理的発達の障害	
12	症状性精神障害	27	リエゾン精神医学・心身医学・ライフサイクルにおける精神医学	
13	精神作用物質による精神及び行動の障害 (2)	28	治療・リハビリテーション (1)	
14	精神作用物質による精神及び行動の障害 (1)	29	治療・リハビリテーション (2)	
15	てんかん	30	精神科保健医療と福祉・リハビリテーション	

基本情報	2 年後期	専門基礎分野	1 単位（ 30 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	小児科学			
担当教員	長倉智和・拜郷敦彦 他			
1. 講義概要				
小児科学では、基本となる小児の正常発達と療育について解説した後、代表的な小児疾患の病態、診断及び治療について講義する。				
2. 到達目標				
成長、発達段階にある小児の特性を踏まえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患について理解を深める。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
標準理学療法学・作業療法学 小児科学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	新生児未熟児疾患の言葉の定義、身体的成熟度の評価、新生児仮死			
2	新生児未熟児疾患新生児レメナ、頭蓋内出血、黄疸など			
3	呼吸器感染症、免疫・アレルギー、膠原病			
4	喘息・アレルギー			
5	神経、てんかん、発達障害			
6	筋疾患			
7	内分泌疾患			
8	先天異常 奇形症候群、代謝異常			
9	非チアノーゼ型心疾患、チアノーゼ型心疾患、各種不整脈			
10	川崎病			
11	小児消化器疾患・腎、腸重積、横隔膜ヘルニア、食道閉鎖、停留精巣、陰嚢水腫			
12	白血病、Wilms 腫瘍、腎芽腫、血友病、紫斑病			
13	睡眠関連病態、心身症、児童虐待など			
14	小児科の基本的な診療、薬量など			
15	テスト			

基本情報	1年後期	専門基礎分野	1単位（30時間）	授業方法（講義）
科目名	リハビリテーション医学・障害学			
担当教員	池田真一・秋好久美子			
1. 講義概要				
リハビリテーション医学ではまず、基礎となる学問体系を概説し、次に対象となる脳や脊髄の損傷、神経筋疾患、発達障害、切断や関節リウマチ、内部疾患などに対する診断や治療の進め方を解説する。				
2. 到達目標				
臨床医学におけるリハビリテーションの役割、障害評価と治療の位置づけと意義を理解する。				
3. 成績評価				
筆記試験 100%				
100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
リハビリテーション医学テキスト				
標準整形外科学				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	脳機能と脳卒中			
2	脳卒中・評価・高次脳機能障害（1）			
3	脳卒中・評価・高次脳機能障害（2）			
4	呼吸			
5	神経筋疾患			
6	誤嚥性肺炎、神経筋疾患各論			
7	評価			
8	神経徴候			
9	脊髄損傷（1）			
10	脊髄損傷（2）			
11	治療学全般			
12	義手・義足			
13	呼吸器疾患・呼吸リハ			
14	呼吸生理・心臓リハビリテーション			
15	がんリハビリテーション			

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)
科目名	リハビリテーション概論			
担当教員	片岡晶志			

1. 講義概要

リハビリテーションの歴史と理念及びその仕組みについて学習する。

2. 到達目標

リハビリテーションの定義・歴史から始まり、リハビリテーション分野、障害の分類と実態、リハビリテーションチームの役割、障害受容、各制度上の問題点などについて概説していく。また各論では診断や治療の進め方を理解し、基本的な理学・作業療法について理解を深める。

3. 成績評価

・筆記試験 100%

・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

リハビリテーション医学テキスト 標準整形外科学 -第 12 版-

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	リハビリテーションの定義・理念・対象者
2	ICF とライフステージにおける障害特性・ノーマライゼーション
3	リハビリテーション評価学
4	リハビリテーション治療学
5	高齢者のリハビリテーション
6	発達障害・肢体不自由児のリハビリテーション
7	運動器疾患のリハビリテーション
8	災害医学とリハビリテーション

基本情報	1年後期	専門基礎分野	2単位（30時間）	授業方法（講義）
科目名	保健医療福祉制度論			
担当教員	田嶋昭二			
1. 講義概要				
人々の健康の維持・増進のために必要な健康・医療・福祉の統合といった観点から、その現状・背景・問題点を解説し、専門職の目指すべき方向性や視点を示唆する。				
2. 到達目標				
保健、医療、福祉の連携システムの概念および従事者の活動と役割について理解する。				
3. 成績評価				
筆記試験 100%				
100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
社会福祉小六法 介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック 系統看護学講座専門基礎 社会保障・社会福祉				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	社会保障のしくみ			
2	地域包括ケアシステム			
3	サービス利用の窓口・支援する人・制度			
4	援助技術			
5	医療・福祉の連携の実際			
6	医療サービス（1）			
7	医療サービス（2）			
8	生活としごと			
9	高齢者サービス（1）			
10	高齢者サービス（2）			
11	障害児・者サービス（1）			
12	障害児・者サービス（2）			
13	子ども・家庭のために			
14	大規模自然災害等の保障			
15	まとめ			

基本情報	1 年前期	専門基礎分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)
科目名	公衆衛生学			
担当教員	工藤政信			

1. 講義概要

公衆衛生の基本内容、健康から疾患までの状態に応じた保健活動について理解する。

2. 到達目標

健康指導の指標となる種々の統計値の意味と動向を把握し、生活環境と健康の関わりや関連する社会保険制度、社会福祉制度および諸法令について幅広く理解することを目標とする。

3. 成績評価

・筆記試験 100%

・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

社会・環境と健康 公衆衛生学

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	公衆衛生の意義と歴史：歴史は経緯と保健政策の意義、 技術の発展と行政の歴史について
2	人口、保健統計：静態・動態人口、統計など。死因、出生
3	保健統計、疫学：保健統計の残り、生命表、疫病統計、疫学手法、因子
4	疫学保健統計：疫学の残り、保険統計の概要、
5	情報とコミュニケーション：パソコン・ネット接続・サイト・検索の説明
6	衛生行政活動・公衆衛生活動：行政活動・母子保健・老人保健等
7	環境と健康、生活習慣病：疾病の疫学、循環器疾患、 メタボリックシンドローム、食生活等
8	生活習慣病、行動科学・学校保健・産業保健

専 門 分 野

基本情報	3 年後期	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	作業療法管理学			
担当教員	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
1 . 講義概要				
医療保険や介護保険など作業療法士を取り巻く諸制度を理解し、職場管理、作業療法士教育に必要な能力を養うとともに、職業倫理を高める態度を養う。				
2 . 到達目標				
・保健・医療・福祉の現状や今後の動向について理解することができる。				
・作業療法士を取り巻く諸制度を理解することができる。				
・職業倫理に対する意識を高めることができる。				
3 . 成績評価				
・筆記試験 100 %				
・100 点満点で表された成績を、100 ~ 90 点、89 ~ 80 点、79 ~ 70 点、69 ~ 60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4 . テキスト・参考書等				
作業療法管理学入門：医歯薬出版				
5 . 授業計画				
コマ	教授内容			
1	作業療法とマネジメント			
2	組織の成り立ちとマネジメント			
3	情報のマネジメント			
4	医療サービスのマネジメント			
5	医療安全のマネジメント			
6	作業療法業務のマネジメント (1)			
7	作業療法業務のマネジメント (2)			
8	作業療法業務のマネジメント (3)			
9	作業療法の役割と職域			
10	作業療法士の職業倫理			
11	作業療法士を取り巻く諸制度 (1)			
12	作業療法士を取り巻く諸制度 (2)			
13	作業療法士を取り巻く諸制度 (3)			
14	作業療法臨床実習の理解と管理体制			
15	作業療法士のキャリア開発			

基本情報	1 年前期	専門分野	1 単位（ 30 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	作業療法概論Ⅰ			
担当教員	甲斐裕介 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
1．講義概要				
「リハビリテーション」「作業療法」の定義、仕事内容、対象領域などを講義し、作業療法を正しく理解するとともに、現在の保健医療福祉の情勢にも触れ、専門職として、また社会人としてどうあるべきか、を思案してもらう。				
2．到達目標				
リハビリテーションの流れを理解する。				
作業療法の業務内容を理解し説明できる。				
対象領域を理解する。				
各領域における作業療法の展開を現在の保健医療福祉を踏まえ理解する。				
3．成績評価				
筆記試験 80％ レポート 20％				
100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4．テキスト・参考書等				
目で見えるリハビリテーション医学（ 東京大学出版 第 2 版 ）				
作業療法学概論（ 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 改定第 2 版 ）				
5．授業計画				
コマ	教授内容			
1	作業療法を取り巻く社会情勢			
2	リハビリテーションの理念，QOL			
3	作業療法とは			
4	国際生活機能分類（ ICF ）			
5	国際生活機能分類（ ICF ）			
6	身体障害領域の作業療法			
7	老年期障害の作業療法			
8	発達障害の作業療法			
9	精神障害の作業療法			
10	病院見学			
11	病院見学			
12	作業療法実践			
13	作業療法実践			
14	作業療法実践			
15	作業療法の理論			
16	テスト			

基本情報	2 年次	専門分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義)
科目名	作業療法概論Ⅱ			
担当教員	塩月 繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
1 . 講義概要				
1 年次に学んだ専門基礎科目の復習や 2 年次の臨床医学の知識修得を図り、臨床実習や国家試験に対応できる能力を獲得する。				
2 . 到達目標				
解剖学・生理学・運動学に対する理解を深めることが出来る。				
内科学や整形外科学、神経内科学等臨床医学に対する理解を深めることが出来る。				
臨床実習や国家試験に必要な知識を身につけることが出来る。				
3 . 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4 . テキスト・参考書等				
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント				
5 . 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	解剖学・生理学・運動学の復習		17	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
2	解剖学・生理学・運動学の復習		18	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
3	解剖学・生理学・運動学の復習		19	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
4	解剖学・生理学・運動学の復習		20	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
5	解剖学・生理学・運動学の復習		21	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
6	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		22	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
7	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		23	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
8	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		24	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
9	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		25	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
10	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		26	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
11	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		27	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
12	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		28	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
13	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		29	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
14	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		30	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等
15	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等		31	テスト
16	内科学・整形外科学・神経内科・脳外科等			

基本情報	3 年次	専門科目	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義)
科目名	作業療法概論Ⅲ			
担当教員	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
1．講義概要 国家試験合格に向けた知識の定着を図る．				
2．到達目標 専門・基礎分野における国家試験問題への解説を作成し，理解を深めることが出来る．				
3．成績評価 ・筆記試験 100％ ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4．テキスト・参考書等 国家試験問題プリント				
5．授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	身体障害分野	17	老年期障害分野	
2	身体障害分野	18	老年期障害分野模擬試験	
3	身体障害分野	19	発達障害分野，評価学，関連法規	
4	身体障害分野	20	発達障害分野，評価学，関連法規	
5	身体障害分野	21	発達障害分野，評価学，関連法規	
6	身体障害分野模擬試験	22	発達障害分野，評価学，関連法規	
7	精神障害分野	23	発達障害分野，評価学，関連法規	
8	精神障害分野	24	発達障害分野，評価学，関連法規	
9	精神障害分野	25	発達障害分野，評価学，関連法規模擬試験	
10	精神障害分野	26	まとめ	
11	精神障害分野	27	まとめ	
12	精神障害分野模擬試験	28	まとめ	
13	老年期障害分野	29	まとめ	
14	老年期障害分野	30	まとめ	
15	老年期障害分野	31	テスト	
16	老年期障害分野			

基本情報	1 年次	専門分野	2 単位（60 時間）	授業方法（実習）
科目名	基礎作業学実習 1			
担当教員	藤原 一 （実務経験者）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 （実務経験者）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
基礎作業学とは、作業活動における評価の視点、観察の視点と記録法、各種活動の企画と運営および分析、高齢者へのレクリエーションの企画・運営				
2. 到達目標				
実際の活動を実施し、その特性を分析、レポートを作成することができる。活動の中で他者を観察し、客観的に記録することができる。対象者や目的に合わせた活動の企画・運営ができる。				
3. 成績評価				
・レポート 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
作業学（作業療法学ゴールドマスターテキスト 第 2 版）				
5. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	入学後のレクリエーション①		16	ソフトボール
2	入学後のレクリエーション②		17	バレーボール
3	グループ討議①		18	運動会①
4	グループ討議②		19	運動会②
5	基礎作業学とは		20	木工道具と使用方法
6	作業活動における評価の視点		21	設計図制作
7	作業活動の治療的応用について		22	木工①
8	観察の方法およびその記録法		23	木工②
9	各作業活動の企画・運営 担当割り振り		24	木工③
10	テニス		25	木工④
11	ゲートボール		26	木工⑤
12	卓球		27	木工⑥
13	フットサル		28	木工⑦
14	プラモデル		29	家事活動
15	卓上ゲーム		30	調理

基本情報	2 年次	専門分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (実習)
科目名	基礎作業学実習 2			
担当教員	溝上義則			
	塩月 繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要 各種作業活動の特性と治療的意義、各種作業活動の企画・運営、精神科でのレクリエーションの企画・運営				
2. 到達目標 実際の活動を実施し、その特性を分析、レポートを作成することができる。活動の中で他者を観察し、客観的に記録することができる。対象者や目的に合わせた活動の企画・運営ができる。				
3. 成績評価 ・レポート 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等 作業その治療的応用				
5. 授業計画				
コマ	教授内容	コマ	教授内容	
1	各種作業活動計画 運営担当割り振り	16	陶芸①	
2	園芸 (整地・草取り)	17	陶芸②	
3	園芸 (植付)	18	陶芸③	
4	園芸 (収穫・整地)	19	陶芸④	
5	革細工とその道具	20	精神科レクリエーションの目的 意義	
6	革細工①	21	精神科レクリエーション運営①	
7	革細工②	22	精神科レクリエーション運営②	
8	革細工③	23	精神科レクリエーション運営③	
9	革細工④	24	精神科レクリエーション運営④	
10	登山①	25	レクリエーション大会①	
11	登山②	26	レクリエーション大会②	
12	釣り①	27	レクリエーション大会③	
13	釣り②	28	レクリエーション大会③	
14	釣り③	29	七宝焼	
15	釣り④	30	籐細工	

基本情報	3 年後期	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	研究法			
担当教員	彌田 剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
医療職における「研究」の必要性を理解すると共に方法・手段をを学び、実践する。				
2. 到達目標				
EBM について理解する。				
研究の意義を理解する。				
研究の種類 (量的研究・質的研究) を理解する。				
3. 成績評価				
•筆記試験 50% レポート 30% 発表会 20%				
•100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
作業療法研究				
統計ソフト EZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	研究法総論			
2	EBM と研究倫理・利益相反			
3	臨床疑問と研究の種類			
4	研究計画の立案			
5	研究の種類とデザイン (1)			
6	研究の種類とデザイン (2)			
7	統計解析 (1)			
8	統計解析 (2)			
9	統計解析 (3)			
10	研究演習			
11	研究演習			
12	研究演習			
13	研究演習			
14	研究演習			
15	テスト・研究発表会			

基本情報	1年後期	専門分野	1単位（30時間）	授業方法（講義）
科目名	生活評価学			
担当教員	甲斐裕介 （実務経験者）	作業療法士として7年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として13年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 （実務経験者）	作業療法士として6年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として13年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
人の生活の概念を理解し、生活と活動、行為を分析し総合的に評価する方法を学ぶ。				
2. 到達目標				
QOLならびに日常生活活動の評価、検査方法を習得する。				
3. 成績評価				
・筆記試験 80% レポート 20%				
・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。				
4. テキスト・参考書等				
日常生活活動学（ADL）作業療法学ゴールドマスター・テキスト改訂第2版				
脳卒中の機能評価 SIAS と FIM（基礎編）				
作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	人の生活とは。ADLの概念と範囲、定義。			
2	ADLの「質的評価」と「量的評価」 BADL評価表:BIとFIMを中心に			
3	できるADLとしているADL：その差を埋めるためには ADLの治療理論			
4	基本動作：起居・移動動作			
5	基本動作：食事動作・排泄動作			
6	基本動作：入浴動作・更衣動作			
7	基本動作：整容動作・コミュニケーション			
8	IADL評価表:老研式活動能力指標、AMPS			
9	人と環境と作業の関係、作業の階層			
10	作業遂行分析：AMPSの実施手順・課題の選定			
11	作業遂行分析：AMPS見学・実施			
12	作業遂行分析：AMPS見学・実施			
13	作業遂行分析：AMPS見学・実施			
14	作業遂行分析：AMPSフィードバック・報告会			
15	まとめ（質的・量的評価の違い、作業療法の視点）			
16	テスト			

基本情報	1 年次	専門分野	4 単位 (120 時間)	授業方法 (講義・実習)
科目名	評価学演習 I			
担当教員	塩月 繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		

1. 講義概要

運動器の基本的検査測定を理解し正確に実施できるようになる。

2. 到達目標

関節可動域測定方法を習得する。反射検査法を習得する。知覚検査法を習得する。筋力検査法について習得する

3. 成績評価

筆記試験 60% 実技試験 40%

100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

作業療法評価学 医学書院

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	評価の目的について	21	形態測定演習	41	ROM 演習 (体幹)
2	情報収集とその方法 情報分析と考察	22	形態測定実技演習	42	ROM 演習 (体幹)
3	ICF の構成因子	23	ROM の意義と目的	43	ROM 演習 (体幹)
4	評価方法、判定基準、 問題点のまとめ方	24	ROM の意義と目的	44	反射の種類とメカニズム
5	治療計画と プログラム立案	25	ROM テストの方法	45	反射の種類とメカニズム
6	記録と報告について	26	ROM 演習 (上肢)	46	反射の種類とメカニズム
7	個人情報保護について	27	ROM 演習 (上肢)	47	深部腱反射演習
8	面接と観察について	28	ROM 演習 (上肢)	48	深部腱反射演習
9	面接と観察の実際、演習	29	ROM 演習 (上肢)	49	病的反射検査演習
10	面接と観察の実際、演習	30	ROM 演習 (上肢)	50	知覚の分類、伝導路
11	バイタル測定	31	ROM 演習 (上肢)	51	知覚検査演習
12	バイタル測定	32	ROM 演習 (下肢)	52	知覚検査演習
13	バイタル測定	33	ROM 演習 (下肢)	53	知覚検査演習
14	形態測定の意義と種類	34	ROM 演習 (下肢)	54	知覚検査演習
15	形態測定演習	35	ROM 演習 (下肢)	55	知覚検査演習
16	形態測定演習	36	ROM 演習 (下肢)	56	知覚検査演習
17	形態測定演習	37	ROM 演習 (下肢)	57	運動器の解剖と運動学
18	形態測定演習	38	ROM 演習 (体幹)	58	運動器の解剖と運動学
19	形態測定演習	39	ROM 演習 (体幹)	59	粗大筋力検査演習
20	形態測定演習	40	ROM 演習 (体幹)	60	粗大筋力検査演習

基本情報	2 年前期	専門分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (実習)
科目名	評価学演習Ⅱ			
担当教員	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		

1. 講義概要

運動器の検査測定と疾患別の検査測定を理解し正確に実施できるようになる。

2. 到達目標

徒手筋力検査法を習得する

協調性検査を習得する。

筋緊張検査を習得する。

脳神経検査を習得する。

上肢機能検査を習得する。

姿勢、バランス検査法を習得する。

高齢者身体機能テストを習得する。

3. 成績評価

筆記試験 60% 実技試験 40%

100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

作業療法評価学 医学書院

神経診察 クローズアップ 正しい病巣診断のコツ MEDICAL VIEW

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	徒手筋力検査法総論,段階付けシステム	16	筋緊張検査実技
2	徒手筋力検査法 上肢の筋力テスト 1	17	脳神経検査総論,評価のポイント
3	徒手筋力検査法 上肢の筋力テスト 2	18	脳神経検査実技 1
4	徒手筋力検査法 上肢の筋力テスト 3	19	脳神経検査実技 2
5	徒手筋力検査法 上肢の筋力テスト 4	20	脳神経検査実技 3
6	徒手筋力検査法 下肢の筋力テスト 1	21	脳神経検査実技 4
7	徒手筋力検査法 下肢の筋力テスト 2	22	上肢機能検査総論,評価のポイント
8	徒手筋力検査法 下肢の筋力テスト 3	23	上肢機能検査 1 (STEF)
9	徒手筋力検査法 頸筋のテスト	24	上肢機能検査 2 (MFT)
10	徒手筋力検査法 体幹筋のテスト	25	姿勢、バランス検査総論,評価のポイント
11	協調性検査総論,評価のポイント	26	姿勢、バランス検査 1
12	協調性検査実技 1	27	姿勢、バランス検査 2
13	協調性検査実技 2	28	高齢者身体機能テスト総論,評価のポイント
14	協調性検査実技 3	29	高齢者身体機能テスト実技 (歩行,CS30 等)
15	筋緊張検査総論,評価ポイント	30	高齢者身体機能テスト実技 (バランス,筋力)

基本情報	2 年後期	専門分野	2 単位 (60 時間)	授業方法 (講義 ・実習)
科目名	評価学統合			
担当教員	塩月 繁 (実務経験者)	作業療法士として7年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義 ・演習を行なっている。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として8年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義 ・演習を行なっている。教員として7年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
様々な対象における評価の視点を学び、アプローチへとつなげる経験を持つ				
2. 到達目標				
対象の特性に応じた検査 ・評価方法を理解し、アプローチ方法を検討することができる。				
3. 成績評価				
・筆記試験 60% レポート 40%				
・100 点満点で表された成績を、100 ～ 90 点、89 ～ 80 点、79 ～ 70 点、69 ～ 60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト ・参考書等				
事例研究報告書作成指針 (ICF モデル) 九州作業療法士学校連絡協議会				
5. 授業計画				
コマ	教授内容		コマ	教授内容
1	疾患別評価レポート作成 (精神)		16	抄読会
2	疾患別評価レポート作成 (精神)		17	生活行為向上マネージメント概論 ・理論
3	疾患別評価レポート作成 (精神)		18	生活行為向上マネージメント概論 ・理論
4	疾患別評価レポート作成 (精神)		19	生活行為向上マネージメント事例検討
5	疾患別評価レポート作成 (身障)		20	生活行為向上マネージメント事例検討
6	疾患別評価レポート作成 (身障)		21	生活行為向上マネージメント事例検討
7	疾患別評価レポート作成 (身障)		22	生活行為向上マネージメント事例検討
8	疾患別評価レポート作成 (身障)		23	ケーススタディ (精神障害者退院促進支援 1)
9	疾患別評価レポート作成 (身障)		24	ケーススタディ (精神障害者退院促進支援 2)
10	疾患別評価レポート作成 (身障)		25	ケーススタディ (精神障害者地域支援)
11	抄読会準備 ・資料作成		26	ケーススタディ (急性期 OT)
12	抄読会準備 ・資料作成		27	ケーススタディ (回復期 OT)
13	抄読会		28	ケーススタディ (訪問 OT)
14	抄読会		29	ケーススタディ (認知症 ・地域包括支援センター)
15	抄読会		30	ケーススタディ (まとめ)

基本情報	2 年前期	専門分野	1 単位（30 時間）	授業方法（講義）
科目名	精神障害評価学			
担当教員	甲斐裕介 （実務経験者）	作業療法士として7年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として13年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 （実務経験者）	作業療法士として8年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要 精神障害を多面的に理解する方略を学ぶ。				
2. 到達目標 精神科領域の評価の実施方法ならびに分析方法を習得する。				
3. 成績評価 筆記試験 80% レポート 20% 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等 授業プリント				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	観察・面接・情報収集			
2	精神科評価レポートの書き方			
3	ICF（精神機能の分類：具体例）			
4	評価レポート作成			
5	評価レポート作成・フィードバック			
6	疾患別評価：統合失調症・感情障害			
7	疾患別評価：認知症・依存症			
8	知能検査			
9	精神機能検査①			
10	精神機能検査②			
11	生活機能検査			
12	人格検査（質問紙法）			
13	人格検査（作業検査法）			
14	人格検査（投影法）			
15	職業適性検査			

基本情報	2 年前期	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	治療学総論			
担当教員	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
作業療法を実践できるようになるために、作業の意味や作業療法の原理を理解し、積極的に学習していく態度を身につける。				
2. 到達目標				
作業療法実践の意味と根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて理解する。				
3. 成績評価				
筆記試験 80% レポート 20%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
作業療法ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第 2 版				
作業療法技術ガイド COPM[カナダ作業遂行測定] 第 4 版				
事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント				
続・作業療法の視点 作業を通しての健康と公正				
作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド				
作業療法の話をしよう 作業の力に気づくための歴史・理論・実践				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	作業と生活行為：作業が治療になる理由			
2	作業と生活行為：作業と人の健康 (ウェルビーイング)			
3	作業と生活行為：トップダウンとボトムアップ、作業との結びつき			
4	作業的公正と作業の可能化について			
5	作業の可能化のモデルとリーズニング			
6	作業療法の理論：カナダ作業遂行モデル (CMOP) とその評価の活用			
7	作業療法の理論：人間作業モデル (MOHO) とその評価の活用			
8	COPM 実施			
9	COPM 実施			
10	COPM 実施後の記録と報告の仕方			
11	作業療法の理論：生体力学モデル、運動学習モデル			
12	作業療法の理論：作業療法介入モデル (OTIPM)、感覚統合モデル			
13	作業療法の理論：IPS モデル			
14	事例から作業療法の視点を学ぶ			
15	事例から作業療法の視点を学ぶ			
16	テスト			

基本情報	2 年前期	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	脳血管疾患等作業療法			
担当教員	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
中枢神経疾患の概略を理解するとともに作業療法の実践について学ぶ。				
2. 到達目標				
脳血管疾患について理解し、評価、プログラム立案、治療内容の流れを理解することができる。				
3. 成績評価				
筆記試験 100%				
100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
病気が見える Vol.7 脳・神経				
作業療法学ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学 (改訂第 2 版)				
作業療法技術ガイド				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	脳卒中とは			
2	脳の解剖生理			
3	脳卒中の病態			
4	脳卒中の症状			
5	片麻痺患者の基本動作			
6	片麻痺患者の A D L 動作			
7	片麻痺患者の I A D L 動作			
8	脳卒中の評価			
9	脳卒中の評価			
10	脳卒中の評価			
11	脳卒中患者の急性期治療			
12	脳卒中患者の回復期治療			
13	脳卒中患者の生活期支援			
14	脳卒中の作業療法			
15	脳卒中の作業療法			
16	テスト			

基本情報	2 年前期	専門分野	1 単位（ 15 時間 ）	授業方法（ 講義 ）																				
科目名	高次脳機能障害作業療法																							
担当教員	鳥越克志 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。																						
1. 講義概要 高次脳機能障害の概略を理解するとともに作業療法の実践について学ぶ。																								
2. 到達目標 高次脳機能障害の種類と特徴を理解することができる。 高次脳機能障害の評価、プログラム立案、治療内容の流れを理解することができる。																								
3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。																								
4. テキスト・参考書等 病気が見える Vol.7 脳・神経 身体機能作業療法学（作業療法学 ゴールドマスターテキスト） 作業療法学ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学（改訂第 2 版）																								
5. 授業計画																								
<table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>高次脳機能障害とは</td></tr><tr><td>2</td><td>脳の解剖生理と高次脳機能障害をきたす疾患</td></tr><tr><td>3</td><td>失語症・失行・失認</td></tr><tr><td>4</td><td>半側空間無視</td></tr><tr><td>5</td><td>注意障害 記憶障害</td></tr><tr><td>6</td><td>遂行機能障害</td></tr><tr><td>7</td><td>高次脳機能障害の作業療法</td></tr><tr><td>8</td><td>高次脳機能障害の作業療法</td></tr><tr><td>9</td><td>テスト</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	高次脳機能障害とは	2	脳の解剖生理と高次脳機能障害をきたす疾患	3	失語症・失行・失認	4	半側空間無視	5	注意障害 記憶障害	6	遂行機能障害	7	高次脳機能障害の作業療法	8	高次脳機能障害の作業療法	9	テスト
コマ	教授内容																							
1	高次脳機能障害とは																							
2	脳の解剖生理と高次脳機能障害をきたす疾患																							
3	失語症・失行・失認																							
4	半側空間無視																							
5	注意障害 記憶障害																							
6	遂行機能障害																							
7	高次脳機能障害の作業療法																							
8	高次脳機能障害の作業療法																							
9	テスト																							

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位（30 時間）	授業方法（講義）
科目名	神経内科作業療法			
担当教員	鳥越克志 （実務経験者）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月 繁 （実務経験者）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
1. 講義概要 神経変性疾患・神経筋疾患・脊髄損傷の概略を理解するとともに作業療法の実践について学ぶ。				
2. 到達目標 神経変性疾患・神経筋疾患・脊髄損傷について理解し、評価、プログラム立案、治療内容の流れを理解することができる。				
3. 成績評価 筆記試験 100% 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等 病気が見える Vol.7 脳・神経 身体機能作業療法学（作業療法学 ゴールドマスターテキスト） 作業療法学ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学（改訂第 2 版）				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	神経変性疾患、神経筋疾患とは			
2	パーキンソン病の評価と作業療法			
3	脊髄小脳変性症の評価と作業療法			
4	筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法			
5	多発性硬化症の評価と作業療法			
6	ギランバレー症候群の評価と作業療法			
7	筋ジストロフィーの評価と作業療法			
8	多発性筋炎・重症筋無力症の評価と作業療法			
9	ターミナルケアと作業療法			
10	脊髄損傷とは			
11	脊髄損傷の病態			
12	脊髄損傷者の評価			
13	脊髄損傷者の A D L			
14	脊髄損傷者の I A D L			
15	脊髄損傷者の作業療法			
16	テスト			

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位（15 時間）	授業方法（講義）
科目名	内部障害作業療法			
担当教員	猪野由美子 （実務経験者）	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		

1. 講義概要

内部障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。

2. 到達目標

疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。

疾患ごとの作業療法評価やプログラムが立案できるようになる。

終末期の基本的な作業療法について理解する。

3. 成績評価

・筆記試験 100%

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

病気が見える Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌

病気がみえる Vol.1 消化器

作業療法学ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学（改訂第2版）

PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学2 内部疾患編（第1版）

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	心腎関連症候群（病態生理）
2	糖尿病の評価と治療
3	糖尿病の作業療法
4	がんについて（種類と病態生理）
5	がんの評価と治療
6	がんの作業療法
7	事例
8	事例
9	テスト

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位（ 15 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	心大血管作業療法			
担当教員	鳥越克志 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
循環器疾患の作業療法を理解する。				
2. 到達目標				
循環器疾患・代謝疾患についての評価、治療、作業療法について理解する。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
作業療法学ゴールド・マスターテキスト 身体障害作業療法学（改訂第 2 版）				
PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 2 内部疾患編（第 1 版）				
作業療法マニュアル 44 心大血管疾患の作業療法				
病気がみえる Vol.2 循環器				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	心大血管リハビリテーションとは			
2	心大血管リハビリテーションの評価（各種検査・心解剖について）			
3	心大血管リハビリテーションの評価（心電図）			
4	心大血管リハビリテーションの評価（フィジカルアセスメント）			
5	心大血管リハビリテーションの評価（ADL/IADL,METS）			
6	心臓リハビリテーションと作業療法			
7	作業療法介入の考え方（心理面を中心に）			
8	事例検討			
9	テスト			

基本情報	2 年前期	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	運動器作業療法			
担当教員	塩月 繁 (実務経験者)	作業療法士として7年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		

1. 講義概要

運動器疾患に対する作業療法の評価、治療法を教授する。

2. 到達目標

運動器疾患について理解を深めることが出来る。運動器疾患の評価を行うことが出来る。

運動器疾患の治療を考えることができる。

3. 成績評価

・筆記試験 100%

・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

4. テキスト・参考書等

図解 作業療法技術ガイド

～根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて～ 第3版

作業療法学ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第2版

作業療法士のためのハンドセラピー入門 第2版

リハビリテーション医学 第2版 Vol.15 呼吸器のリハビリテーション

リハビリテーション医学 第2版 Vol.15 内部障害のリハビリテーション

5. 授業計画

コマ	教授内容
1	運動器とは ハンドセラピーとは
2	上肢骨折～総論・評価・治療～ ①
3	上肢骨折～総論・評価・治療～ ②
4	体幹、下肢骨折～総論・評価・治療～ ①
5	体幹、下肢骨折～総論・評価・治療～ ②
6	手指腱断裂～総論・評価・治療～
7	腕神経損傷～総論・評価・治療～
8	末梢神経損傷～総論・評価・治療～ ①
9	末梢神経損傷～総論・評価・治療～ ②
10	関節リウマチ～総論・評価・治療～ ①
11	関節リウマチ～総論・評価・治療～ ②
12	熱傷～総論・評価・治療～
13	切断～総論・評価・治療～
14	変性疾患～総論・評価・治療～ その他
15	スプリント作製
16	テスト

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位（30 時間）	授業方法（講義）
科目名	呼吸器作業療法			
担当教員	猪野由美子 （実務経験者）	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
呼吸器疾患の作業療法を理解する。				
2. 到達目標				
呼吸器疾患等について評価、治療、作業療法プログラムの立案ができる。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト身体機能作業療法学 -改訂第 2 版- 呼吸器疾患ビジュアルブック 作業療法技術ガイド -第 3 版- 作業療法マニュアル 45、46 呼吸器疾患の作業療法①、② 視聴覚教材 等				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	作業療法士が呼吸リハビリテーションを行う意義、概要			
2	病態生理			
3	呼吸器疾患に対する評価：呼吸リハビリテーションにおける一般的評価			
4	呼吸器疾患に対する評価：呼吸リハビリテーションにおける一般的評価			
5	呼吸器疾患の作業療法評価			
6	呼吸器疾患の作業療法評価（問診・触診・視診・打診）			
7	呼吸器疾患の作業療法評価（コンディショニング）			
8	呼吸器疾患に対する心理的評価とアプローチ			
9	治療：包括的リハビリテーションの中での作業療法			
10	治療：ADL・IADL・QOL 支援①			
11	治療：ADL・IADL・QOL 支援②			
12	在宅酸素療法について、人工呼吸器について			
13	吸引実技			
14	呼吸器疾患の作業療法①			
15	呼吸器疾患の作業療法②			
16	テスト			

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)																		
科目名	高齢期作業療法																					
担当教員	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。																				
1. 講義概要 日本の高齢者施策について概説するとともに、老年期における特徴を捉え、老年期作業療法を理解する。 2. 到達目標 老年期の作業療法プログラムが立案できるようになる。 3. 成績評価 ・筆記試験 100% ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 標準作業療法学 高齢期作業療法学 医学書院 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>高齢期の一般的特徴</td></tr><tr><td>2</td><td>高齢期に多い疾患</td></tr><tr><td>3</td><td>高齢期の生活課題</td></tr><tr><td>4</td><td>介護保険の概要とサービスの実際</td></tr><tr><td>5</td><td>地域包括ケアシステムと生涯活躍のまちについて</td></tr><tr><td>6</td><td>事例紹介</td></tr><tr><td>7</td><td>事例紹介</td></tr><tr><td>8</td><td>高齢者への基本的態度とコミュニケーションについて</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	高齢期の一般的特徴	2	高齢期に多い疾患	3	高齢期の生活課題	4	介護保険の概要とサービスの実際	5	地域包括ケアシステムと生涯活躍のまちについて	6	事例紹介	7	事例紹介	8	高齢者への基本的態度とコミュニケーションについて
コマ	教授内容																					
1	高齢期の一般的特徴																					
2	高齢期に多い疾患																					
3	高齢期の生活課題																					
4	介護保険の概要とサービスの実際																					
5	地域包括ケアシステムと生涯活躍のまちについて																					
6	事例紹介																					
7	事例紹介																					
8	高齢者への基本的態度とコミュニケーションについて																					

基本情報	2 年前期	専門分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)																		
科目名	認知症作業療法																					
担当教員	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。																				
1. 講義概要 認知症に対する評価技術ならびに支援のあり方を学ぶ。 2. 到達目標 認知症に対する評価ができる。 認知症者に対する作業療法プログラムが立案できる。 3. 成績評価 筆記試験 100% 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>認知症を取り巻く現状と課題</td></tr><tr><td>2</td><td>認知症の評価手段とその方法①</td></tr><tr><td>3</td><td>認知症の評価手段とその方法②</td></tr><tr><td>4</td><td>認知症支援の方向性①</td></tr><tr><td>5</td><td>認知症支援の方向性②</td></tr><tr><td>6</td><td>認知症に対する包括的理解と支援策立案①</td></tr><tr><td>7</td><td>認知症に対する包括的理解と支援策立案②</td></tr><tr><td>8</td><td>その他治療法について</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	認知症を取り巻く現状と課題	2	認知症の評価手段とその方法①	3	認知症の評価手段とその方法②	4	認知症支援の方向性①	5	認知症支援の方向性②	6	認知症に対する包括的理解と支援策立案①	7	認知症に対する包括的理解と支援策立案②	8	その他治療法について
コマ	教授内容																					
1	認知症を取り巻く現状と課題																					
2	認知症の評価手段とその方法①																					
3	認知症の評価手段とその方法②																					
4	認知症支援の方向性①																					
5	認知症支援の方向性②																					
6	認知症に対する包括的理解と支援策立案①																					
7	認知症に対する包括的理解と支援策立案②																					
8	その他治療法について																					

基本情報	1 年後期	専門分野	1 単位 (15 時間)	授業方法 (講義)																		
科目名	精神障害作業療法																					
担当教員	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。																				
1. 講義概要 精神疾患の概略を理解するとともに精神科作業療法の歴史や実践について学ぶ。 2. 到達目標 精神機能作業療法の歴史と理論を理解する。 医学的リハビリテーションと精神科作業療法を理解する。 3. 成績評価 筆記試験 100% 100 点満点で表された成績を、100 ~ 90 点、89 ~ 80 点、79 ~ 70 点、69 ~ 60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 4. テキスト・参考書等 精神障害と作業療法 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>精神科作業療法の歴史 (世界及び日本)</td></tr><tr><td>2</td><td>入院形態・病棟格差・精神科リハの基本原則</td></tr><tr><td>3</td><td>精神機能・人格 (正常人格と人格障害)・病識と病感</td></tr><tr><td>4</td><td>心因性疾患の理解 (心因反応・神経症・PTSD・摂食障害等)</td></tr><tr><td>5</td><td>外因性疾患の理解 (依存症・てんかん・認知症)</td></tr><tr><td>6</td><td>内因性疾患 1 (感情障害・非定型精神病)</td></tr><tr><td>7</td><td>内因性疾患 2 (統合失調症)</td></tr><tr><td>8</td><td>統合失調症の仮設・精神科作業療法</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	精神科作業療法の歴史 (世界及び日本)	2	入院形態・病棟格差・精神科リハの基本原則	3	精神機能・人格 (正常人格と人格障害)・病識と病感	4	心因性疾患の理解 (心因反応・神経症・PTSD・摂食障害等)	5	外因性疾患の理解 (依存症・てんかん・認知症)	6	内因性疾患 1 (感情障害・非定型精神病)	7	内因性疾患 2 (統合失調症)	8	統合失調症の仮設・精神科作業療法
コマ	教授内容																					
1	精神科作業療法の歴史 (世界及び日本)																					
2	入院形態・病棟格差・精神科リハの基本原則																					
3	精神機能・人格 (正常人格と人格障害)・病識と病感																					
4	心因性疾患の理解 (心因反応・神経症・PTSD・摂食障害等)																					
5	外因性疾患の理解 (依存症・てんかん・認知症)																					
6	内因性疾患 1 (感情障害・非定型精神病)																					
7	内因性疾患 2 (統合失調症)																					
8	統合失調症の仮設・精神科作業療法																					

基本情報	2 年前期	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	精神治療学Ⅰ			
担当教員	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原 一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要				
精神保健における作業療法について、精神症状及び治療について概略的に学習する。				
2. 到達目標				
精神科医療の現状について歴史的背景から理解し、精神医療の中での作業療法について理解する。また、障害の分類提携の背景にある基本理念と考え方を理解することを目標とする。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
精神障害と作業療法 三輪書店				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	治療基礎理論 1 脳の病気としての治療、クレペリン・フロイト・ワトソン等			
2	集団の構成因子			
3	集団の発達・集団のマス効果・場の利用 (トボス)			
4	臨床における集団の実際			
5	対象関係・自己の治療的利用			
6	統合失調症総論・疾病と回復過程			
7	回復過程に必要な治療方針とその原則			
8	統合失調症の精神科作業療法 (入院)			
9	統合失調症の退院促進と退院支援			
10	統合失調症の地域生活支援 (DC, 訪問, 就労)			
11	統合失調症の障害受容と基本的欲求の充足			
12	気分障害とは			
13	気分障害の回復過程			
14	気分障害に対する作業療法			
15	気分障害に対する認知行動療法			

基本情報	2年後期	専門分野	2単位(60時間)	授業方法(講義)
科目名	精神治療学Ⅱ			
担当教員	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として8年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年ほどの経験を有する。		

1. 講義概要

精神科作業療法の実践形態と実践過程について理解する。

2. 到達目標

各精神疾患に対する障害特徴を理解し回復過程にあった作業療法の展開を学習する。

また、認知行動療法など各種の理解と技術を学習し、障害者本人だけでなく家族への援助方法も学習する。

3. 成績評価

・筆記試験 100%

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4. テキスト・参考書等

精神障害と作業療法 三輪書店

身振りで語ろう 協同医書出版社

5. 授業計画

コマ	教授内容	コマ	教授内容
1	SST・サイコドラマ：講義	16	カウンセリングとは(ロジャース)
2	SST 実演	17	カウンセリング実技1
3	SST 実技練習1	18	カウンセリング実技2
4	SST 実技練習2	19	認知行動療法：認知のゆがみ評価
5	SST 実技練習3	20	認知行動療法：コラム法
6	SST 実技練習4	21	アサーション等
7	SST 実技練習5	22	疾患別：PTSD等
8	SST 実技練習6	23	疾患別：パニック障害等
9	疾患別：依存症(薬物)	24	疾患の治療、摂食障害等
10	疾患別：依存症(アルコール)	25	てんかんのリハ
11	疾患別：依存症(摂食障害)	26	心理教育概論
12	自助グループ1(断酒会・AA etc)	27	心理教育技法
13	自助グループ2(NA・AL-Non etc)	28	家族支援・家族療法
14	防衛機制・ストレスとは	29	理論1：Fidler Reilly Mosey Kielhofner
15	ストレス対処自律訓練法等	30	理論2：King 森田療法 etc

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位（30 時間）	授業方法（講義）
科目名	発達障害治療学			
担当教員	黒崎 浩 (実務経験者)	作業療法士として 33 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	森本誠司 (実務経験者)	作業療法士として 33 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
1. 講義概要				
発達障害領域における対象疾患を理解するとともに障害別の作業療法の展開について講義する。				
2. 到達目標				
種々の発達障害を理解する。 評価方法を理解する。訓練・援助計画を考えることができる。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
作業療法全書 発達障害 作業療法学全書第 8 巻 協同医書				
発達障害と作業療法（実践編） 三輪書店				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	発達障害に対する OT の理念と役割			
2	発達障害とは			
3	正常発達			
4	発達障害の評価			
5	精神および行動の発達障害			
6	統合失調症・自閉症スペクトラム			
7	脳性麻痺概論			
8	脳性麻痺の運動障害			
9	感覚統合障害の特性			
10	感覚統合障害の評価			
11	脳性麻痺に対する作業療法			
12	脳性麻痺のソーシャルスキル・ アプローチ			
13	成人の発達障害			
14	成人の発達障害			
15	重症心身障害			

基本情報	2 年後期	専門分野	1 単位（ 30 時間 ）	授業方法（ 講義 ）
科目名	義肢装具学			
担当教員	鳥越克志 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	藤原真実 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 12 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
1. 講義概要				
義肢および装具の歴史から名称、種類、評価、装着方法、チェックポイントなどを講義する。				
2. 到達目標				
義肢装具の種類、適応を理解する。装着時のチェックポイントや評価方法を理解する。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
切断と義肢 新編				
装具治療マニュアル				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	義肢総論			
2	切断部位と切断術			
3	切断者の評価			
4	継手・ソケット			
5	離断者の義足			
6	アライメントチェック			
7	義足歩行			
8	義足異常歩行			
9	義手・障害者スポーツ 義肢給付制度			
10	装具学総論			
11	下肢装具			
12	下肢装具			
13	体幹装具			
14	体幹装具			
15	足継手・上肢装具			
16	テスト			
17	テスト			

基本情報	2 年後期	専門分野	2 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	地域作業療法学			
担当教員	佐藤孝臣 (実務経験者)	作業療法士として 31 年の病院等勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	高森聖人 (実務経験者)	作業療法士として 31 年の病院等勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
1. 講義概要				
「地域」という漠然とした概念を正しく理解し、地域で生活する対象者の現状、作業療法士としての援助方法を学ぶ。				
2. 到達目標				
「地域リハビリテーション」を正しく理解する。 対象領域を理解する。関連法規を理解する。 作業療法としての援助の視点を持てる。				
3. 成績評価				
・筆記試験 100%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等				
地域作業療法学 医学書院				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	リハビリテーションとは			
2	地域における作業療法の役割			
3	地域作業療法の基盤と背景			
4	地域作業療法の理念			
5	ADL/IADL アセスメント			
6	ICF			
7	地域作業療法を支える制度			
8	地域作業療法を支える制度			
9	生活不活発病			
10	経済支援			
11	リスクマネジメント・他職種連携			
12	訪問リハビリテーション			
13	通所リハビリテーション			
14	援助目標の考え方			
15	地域での作業療法実践			

基本情報	2 年前期	専門分野	1 単位 (30 時間)	授業方法 (講義)
科目名	生活環境論			
担当教員	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
1. 講義概要 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。				
2. 到達目標 住環境整備について疾患別・場所別に理解する。				
3. 成績評価 筆記試験 80% レポート 20% 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
4. テキスト・参考書等 福祉住環境コーディネーター検定 2 級テキスト				
5. 授業計画				
コマ	教授内容			
1	人と生活と環境の関わりを考えよう：概要説明 (ICF) 身近な基準を知る：移動の際に必要なスペースを計測する			
2	高齢者や障害者を取り巻く社会状況：日本の未来、木造住宅の問題点、 住環境整備の必要性			
3	主な住宅関連制度：介護保険制度・障害者総合支援法 主な施設の種類の			
4	住環境整備の実践に必要な基礎知識：図面の見方、建築法の種類の			
5	福祉住環境整備の基本技術：段差の解消、床材の選択、手すりの取り付け、建具への配慮			
6	福祉住環境整備の基本技術：スペースへの配慮、家具・収納への配慮、 色彩・照明計画、インテリアへの配慮			
7	福祉住環境整備の基本技術：冷暖房への配慮、非常時の対応、経費、維持管理への配慮			
8	福祉住環境の基本技術：生活行為別住環境整備			
9	福祉住環境の基本技術：生活行為別住環境整備			
10	福祉住環境の基本技術：生活行為別住環境整備			
11	福祉住環境の基本技術：生活行為別住環境整備			
12	生活行為別の住環境整備：国試問題を中心			
13	疾患別住環境整備：個人のまとめを発表する			
14	疾患別住環境整備：個人のまとめを発表する			
15	疾患別住環境整備：個人のまとめを発表する			
16	テスト			

基本情報	1年後期	専門分野	1単位 (15時間)	授業方法(講義)																				
科目名	リハビリテーション機器																							
担当教員	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として6年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として13年ほどの経験を有する。																						
1. 講義概要 リハビリテーションにおける福祉機器を理解する。 2. 到達目標 福祉用具の種類を知り、正しい使い方ができる。 3. 成績評価 ・筆記試験 80% レポート 20% ・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。 4. テキスト・参考書等 福祉住環境コーディネーター検定 2級テキスト 5. 授業計画 <table><tr><td>コマ</td><td>教授内容</td></tr><tr><td>1</td><td>総論：作業と場所の関係、福祉用具の事例(ビデオ)</td></tr><tr><td>2</td><td>福祉用具選定の4つのプロセス、福祉用具とは、UDとは</td></tr><tr><td>3</td><td>就寝・起居・移乗に関する福祉用具</td></tr><tr><td>4</td><td>移動に関する福祉用具(歩行補助具・車椅子)</td></tr><tr><td>5</td><td>排泄・入浴に関する福祉用具</td></tr><tr><td>6</td><td>生活を支える自助具・ICT</td></tr><tr><td>7</td><td>リハビリテーション機器</td></tr><tr><td>8</td><td>介護研修センター見学</td></tr><tr><td>9</td><td>テスト</td></tr></table>					コマ	教授内容	1	総論：作業と場所の関係、福祉用具の事例(ビデオ)	2	福祉用具選定の4つのプロセス、福祉用具とは、UDとは	3	就寝・起居・移乗に関する福祉用具	4	移動に関する福祉用具(歩行補助具・車椅子)	5	排泄・入浴に関する福祉用具	6	生活を支える自助具・ICT	7	リハビリテーション機器	8	介護研修センター見学	9	テスト
コマ	教授内容																							
1	総論：作業と場所の関係、福祉用具の事例(ビデオ)																							
2	福祉用具選定の4つのプロセス、福祉用具とは、UDとは																							
3	就寝・起居・移乗に関する福祉用具																							
4	移動に関する福祉用具(歩行補助具・車椅子)																							
5	排泄・入浴に関する福祉用具																							
6	生活を支える自助具・ICT																							
7	リハビリテーション機器																							
8	介護研修センター見学																							
9	テスト																							

基本情報	1 年後期	専門分野	1 単位（ 45 時間 ）	授業方法（ 実習 ）
科目名	見学実習 I			
担当教員	彌田剛 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：各実習地の実務経験 5 年以上の者			
1. 概要				
臨床現場を見学し、作業療法士やその他関連職種の業務等について理解するとともに対象者とのコミュニケーション能力を身につける。				
2. 一般目標				
作業療法士やその他職種の役割を理解する。				
対象者に寄り添う思考を情勢する。				
コミュニケーション能力を高める。				
3. 行動目標				
・施設内に作業療法士の業務ならびに役割を見学し理解を。				
・対象者やご家族ならびに職員とのコミュニケーション能力を身につける。				
・チームアプローチの重要性を理解する。				
・作業療法士の対象者の捉え方を学ぶ。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習前後 OSCE 20％ 実習地の評定 80％				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	3 年後期	専門分野	1 単位（ 45 時間）	授業方法（ 実習）
科目名	見学実習Ⅱ			
担当教員	彌田剛 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 （ 実務経験者 ）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：各実習地の実務経験 5 年以上の者			
1. 概要				
地域包括ケアシステムについて理解を深め、介護予防や就労支援と作業療法との関連性を学習する。				
2. 一般目標				
地域包括ケアシステムについて理解し、地域における作業療法の役割を考えることができる。				
3. 行動目標				
・地域で生活している対象者を取り巻く状況を理解する。				
・介護保険や障害者総合支援法などについて理解を深めることができる。				
・自助・互助・共助・公助の考え方を理解することができる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習課題 50％ 実習態度 50％				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	1年後期	専門分野	2 単位 (90 時間)	授業方法 (実習)
科目名	検査測定実習			
担当教員	彌田剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要				
評価学で学んだ検査測定の技術を臨床現場で体験し、理解を深める。				
2. 一般目標				
関節可動域測定、形態測定など基本的検査・測定の意義を説明できる。検査を円滑に行うことができる。検査結果を考察できる。				
3. 行動目標				
・対象者に共感できる。				
・対象者や職員等と良好なコミュニケーションを構築できる。				
・検査測定の意義や必要な知識を述べることができる。				
・対象者に不快感を与えることなく正確に測定を行い、記録することができる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習前後 OSCE 20% 基礎学力試験 20% 実習地の評定 60%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	2 年前期	専門分野	2 単位 (90 時間)	授業方法 (実習)
科目名	評価実習 I			
担当教員	彌田剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要				
作業療法士として臨床にでるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。評価実習では評価から目標設定まで実習指導者の元で実践する。				
2. 一般目標				
対象者の情報収集から評価、ICF での構造化、目標設定を円滑に行える。				
記録ができる。				
報告・連絡・相談ができる。				
3. 行動目標				
・対象者の評価項目を抽出し円滑に評価を実施することができる。				
・国際生活機能分類(以下 ICF)で対象者を構造化し目標設定できる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習前後 OSCE 20% 基礎学力試験 20% 実習地の評定 60%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	2 年後期	専門分野	2 単位 (90 時間)	授業方法 (実習)
科目名	評価実習Ⅱ			
担当教員	彌田剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 概要				
評価法で学んだ検査・測定の技術を臨床現場で経験することで、理解を深める。				
2. 一般目標				
対象者の情報収集から評価、ICF での構造化、目標設定を円滑に行える。				
記録ができる。				
報告・連絡・相談ができる。				
3. 行動目標				
・対象者の評価項目を抽出し円滑に評価を実施することができる。				
・国際生活機能分類(以下 ICF)で対象者を構造化し目標設定できる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習前後 OSCE 20% 基礎学力試験 20% 実習地の評定 60%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	3 年前期	専門分野	8 単位 (360 時間)	授業方法 (実習)
科目名	総合臨床実習 I			
担当教員	彌田剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 講義概要				
作業療法士として臨床にできるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。この臨床実習では評価からプログラム立案、再評価までを症例を通して実習指導者の元で実践する。				
2. 一般目標				
対象者の情報収集から評価、ICF での構造化、プログラム立案を円滑に行える。				
対象者の状況に合わせて適宜プログラムを修正できる。				
記録ができる。				
報告・連絡・相談ができる。				
3. 行動目標				
・対象者の評価項目を抽出し円滑に評価を実施することができる。				
・ICF で構造化、生活課題を明確にし目標設定、プログラム立案できる。				
・立案したプログラムを適切に実施し必要に応じて適宜、変更・修正できる。				
・プログラムの効果判定を行うことができる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習前後 OSCE 20% 基礎学力試験 20% 実習地の評価 60%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評価とする。ただし、受講途中で中止した場合は評価不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	3 年前期	専門分野	8 単位 (360 時間)	授業方法 (実習)
科目名	総合臨床実習Ⅱ			
担当教員	彌田剛 (実務経験者)	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 (実務経験者)	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 (実務経験者)	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 (実務経験者)	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 講義概要				
作業療法士として臨床にでるためには、机上の理論だけでなく実践が重要である。この臨床実習では評価からプログラム立案、再評価までを症例を通して実習指導者の元で実践する。				
2. 一般目標				
対象者の情報収集から評価、ICF での構造化、プログラム立案を円滑に行える。				
対象者の状況に合わせて適宜プログラムを修正できる。				
記録ができる。				
報告・連絡・相談ができる。				
3. 行動目標				
・対象者の評価項目を抽出し円滑に評価を実施することができる。				
・ICF で構造化、生活課題を明確にし目標設定、プログラム立案できる。				
・立案したプログラムを適切に実施し必要に応じて適宜、変更・修正できる。				
・プログラムの効果判定を行うことができる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習前後 OSCE 20% 基礎学力試験 20% 実習地の評定 60%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

基本情報	3 年後期	専門分野	1 単位（45 時間）	授業方法（実習）
科目名	地域実習			
担当教員	彌田剛 （実務経験者）	作業療法士として 9 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	藤原一 （実務経験者）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	荒木良夫 （実務経験者）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 20 年ほどの経験を有する。		
	甲斐裕介 （実務経験者）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 13 年ほどの経験を有する。		
	猪野由美子 （実務経験者）	作業療法士として 6 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員とし 13 年ほどの経験を有する。		
	鳥越克志 （実務経験者）	作業療法士として 8 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として 7 年ほどの経験を有する。		
	塩月繁 （実務経験者）	作業療法士として 7 年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	実習指導者：実務経験 5 年以上でかつ臨床実習指導者講習会等を受講した者			
1. 講義概要				
デイケアや訪問リハの見学を通して、地域で障がいを負われた方の援助方法や作業療法の役割について学ぶ。				
2. 一般目標				
地域包括ケアシステムについて理解し、地域における作業療法の役割を考えることができる。				
3. 行動目標				
・地域で生活している対象者を取り巻く状況を理解する。				
・介護保険や障害者総合支援法などについて理解を深めることができる。				
・自助・互助・共助・公助の考え方を理解することができる。				
4. 教授方法				
実習				
5. 評価方法				
・実習課題 50% 実習態度 50%				
・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
6. テキスト・参考書等				
臨床実習のてびき				

学校法人後藤学園 藤華医療技術専門学校

〒879- 7125 豊後大野市三重町内田 2706- 1

電話 : 0974- 22- 3800 FAX:0974- 26- 4272

E-mail : toka@oct-net.ne.jp

HP : <http://toka.gotogakuen.ac.jp>